



KONICA MINOLTA

Giving Shape to Ideas

bizhub 2030/2030f

取扱説明書 機器設定・管理編



第 1 章 機器設定

1

第 2 章 管理設定

2

第 3 章 主な仕様

3

第 4 章 商標および著作権について

4

目次

本書の表示について	v
安全に関する表示	v
操作キーとボタンの表記	v
原稿・用紙向きの表記	v
画面について	vi
操作手順について	vi
ご使用前にお読みください	vii
機器の設置場所について	vii
日常のメンテナンスについて	xi
換気について	xi
動作音について	xi
消耗品の取り扱いについて	xii
製品のリサイクルについて	xiii
使用済み消耗品の回収について	xiii
使用済み機器の受け入れ場所について	xiii

第 1 章 機器設定

各種登録一覧	1-2
優先応用機能を変更する	1-4
ジョブメモリーを使用する	1-7
ジョブメモリーを登録する・変更する	1-7
ジョブメモリーを削除する	1-9
ジョブメモリーリストをプリントする	1-9
ジョブメモリーを実行する	1-10
初期値を設定する	1-11
初期値設定一覧	1-12
節電モードを設定する	1-15
用紙に関する設定をする	1-20
プリント時に使用するカセットを指定する	1-20
用紙／仕分け設定一覧	1-22
リストをプリントする	1-26
プリントのしかた	1-26
リスト一覧	1-27
機器情報を確認する	1-29
ログインする／ログアウトする	1-30
ログインする	1-30
ログアウトする	1-31
IC カードでログインする	1-31
個人設定を使用する	1-32
個人設定をする	1-32
個人設定一覧	1-33
個人画面・共有画面を切り替える	1-34
文字を入力する	1-35
文字入力画面について	1-35

文字入力について	1-36
漢字・ひらがなを入力する	1-37
カタカナを入力する	1-39
英数字を入力する	1-40
記号を入力する	1-41
数字を入力する	1-42
空白（スペース）を入力する	1-42
ドメイン名を入力する	1-43
文字を削除する・挿入する	1-44

第2章 管理設定

機器管理設定一覧	2-2
セキュリティコードを設定する	2-4
管理者パスワードを設定する	2-4
プロテクトコードを設定する	2-6
設定や操作を制限する（機能プロテクト設定）	2-8
機能プロテクトを設定する	2-9
機能プロテクトを使う	2-11
モード禁止設定をする	2-12
ユーザー使用状況を管理する	2-13
通貨単位を設定する	2-13
料金を設定する	2-15
ユーザー使用状況管理リストをプリントする	2-16
集計データを消去する	2-17
ネットワーク設定をする	2-18
TCP / IP 設定をする	2-19
LDAP サーバーを登録する	2-21
LDAP サーバーを削除する	2-25
LDAP 設定リストをプリントする	2-25
アーカイブ設定をする	2-26
ユーザー認証方法を設定する	2-30
機器設定をコピーする	2-31
USB メモリーにエクスポートする	2-31
USB メモリーから機器にインポートする	2-34
自動ログアウト時間を設定する	2-37
IC カード認証を設定する	2-38
IC カード認証を有効にする	2-38
認証方法を設定する	2-39
IC カード情報を登録する	2-40
セキュリティプリントのオートリリース機能を設定する	2-42

第3章 主な仕様

主な仕様	3-2
主な仕様	3-2
外形寸法	3-10

第 4 章 商標および著作権について

商標および著作権などについて.....	4-2
登録商標および商標について	4-2
オープンソースライセンスについて	4-2

本書の表示について

安全に関する表示

本書では、安全にお使いいただくために守っていただきたい事項や操作する上での重要情報に、以下のマークをつけています。

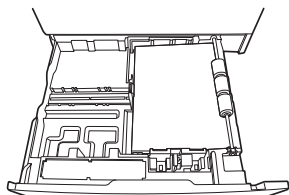
 警告	取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性のある警告事項が書かれています。 安全に使用していただくために、必ずこの警告事項をお守りください。
 注意	取り扱いを誤った場合に、傷害を負う可能性または物的損害が発生する恐れがある注意事項が書かれています。安全に使用していただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
 お願い	誤った操作によるトラブルを防ぐために、必ず守っていただきたい重要事項や制限事項が書かれています。
 補足	操作の参考情報や補足説明が書かれています。

操作キーとボタンの表記

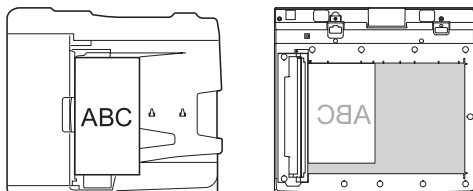
- 〈 〉 操作パネル上のキー
(例：スタートキー → 〈スタート〉)
- [] 液晶ディスプレイ上のボタンやコンピューター画面上のボタンなど
(例：画質ボタン → [画質])

原稿・用紙向きの表記

 記号：用紙を機械正面から見て縦にセットすることを表します。



 記号：原稿を機械正面から見て横にセットすることを表します。



画面について

本書では、特に断りがない限り bizhub 2030f に給紙ユニットを3段装着したときの画像を使用しています。機種やオプションの装着によっては、画像が異なる場合があります。

操作手順について

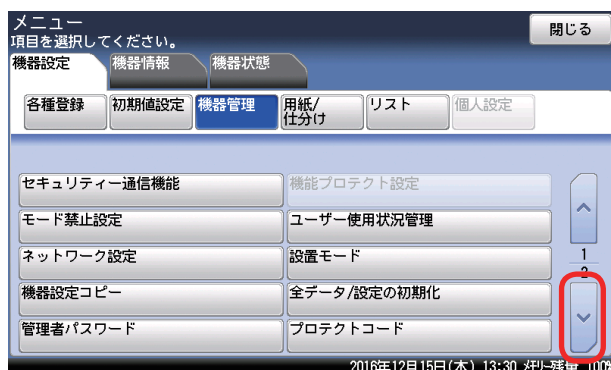
お使いの機器は、取扱説明書で表示されている画面と一部異なる場合があります。下記の説明をよくお読みになって、お使いの機器を操作してください。

操作中の説明では、[へ]、[ｖ] など次の画面を表示する手順を省いています。お使いのタイプやオプションの装着によっては、記載されたメニューが見当たらないことがあります。たとえば、以下のように手順を説明しています。

- 1 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 2 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 3 [自動ログアウト時間] を押します。

実際には、[へ]、[ｖ] を押して、次の画面にメニューがあるか確認してください。

- 1 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 2 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 3 [ｖ] を押します。



- 4 [自動ログアウト時間] を押します。

ご使用の前にお読みください

安全にご使用いただくために、本製品に同梱されている『安全にご使用いただくために』も必ずお読みください。

機器の設置場所について

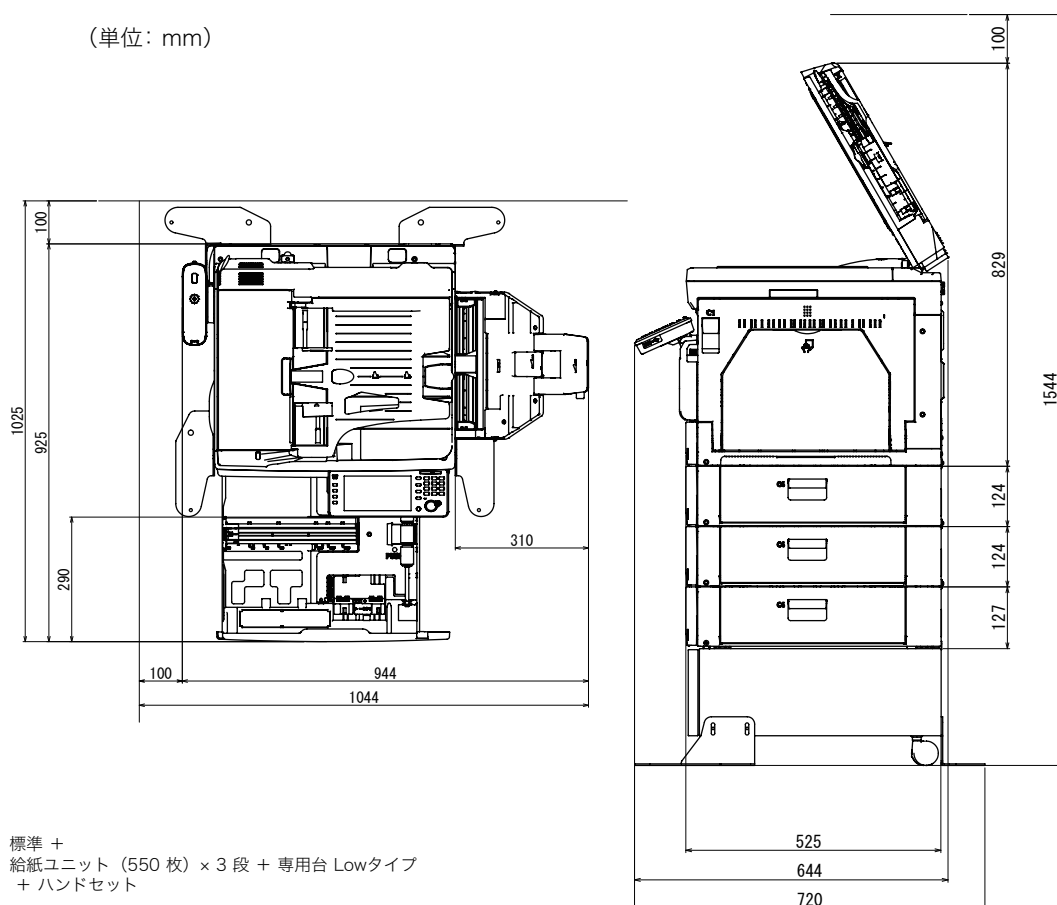
⚠ 注意

- 機器の左側面と背面にある通風孔を壁やほかの機器などから 10 cm 以上離してください。
- 製品の操作に十分なスペースを確保してください。
- 温度差の激しい場所に設置しないでください。温度 10 ～ 32 °C、湿度 20 ～ 80 % RH の環境でお使いください。
- 屋外での設置や使用はしないでください。
- コンセントはできるだけ機器のそばにあるものを利用し、そのコンセントに容易に近づけるようにしてください。非常時に電源プラグを抜けなくなります。

□ 自動両面原稿読み取り装置付の場合

給紙ユニット（550 枚）を装着している場合

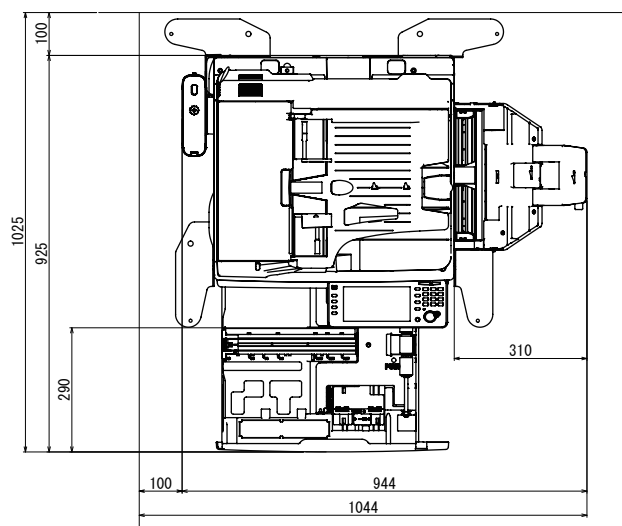
（単位：mm）



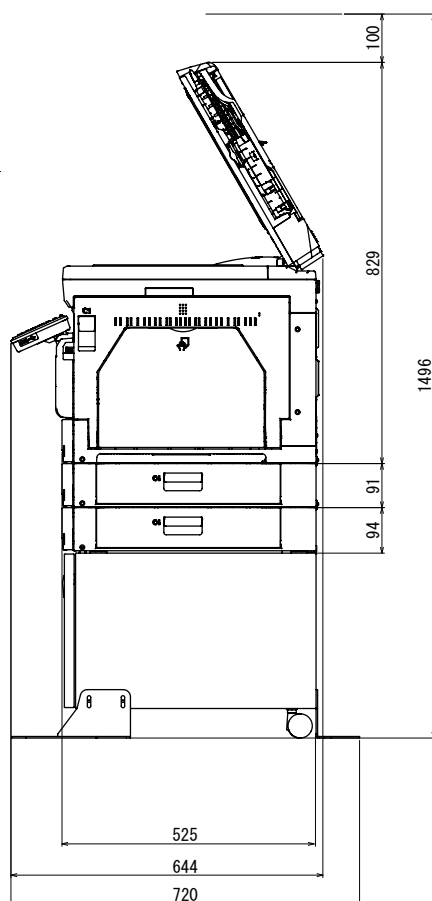
標準 +
給紙ユニット（550 枚）× 3 段 + 専用台 Lowタイプ
+ ハンドセット

給紙ユニット（300 枚）を装着している場合

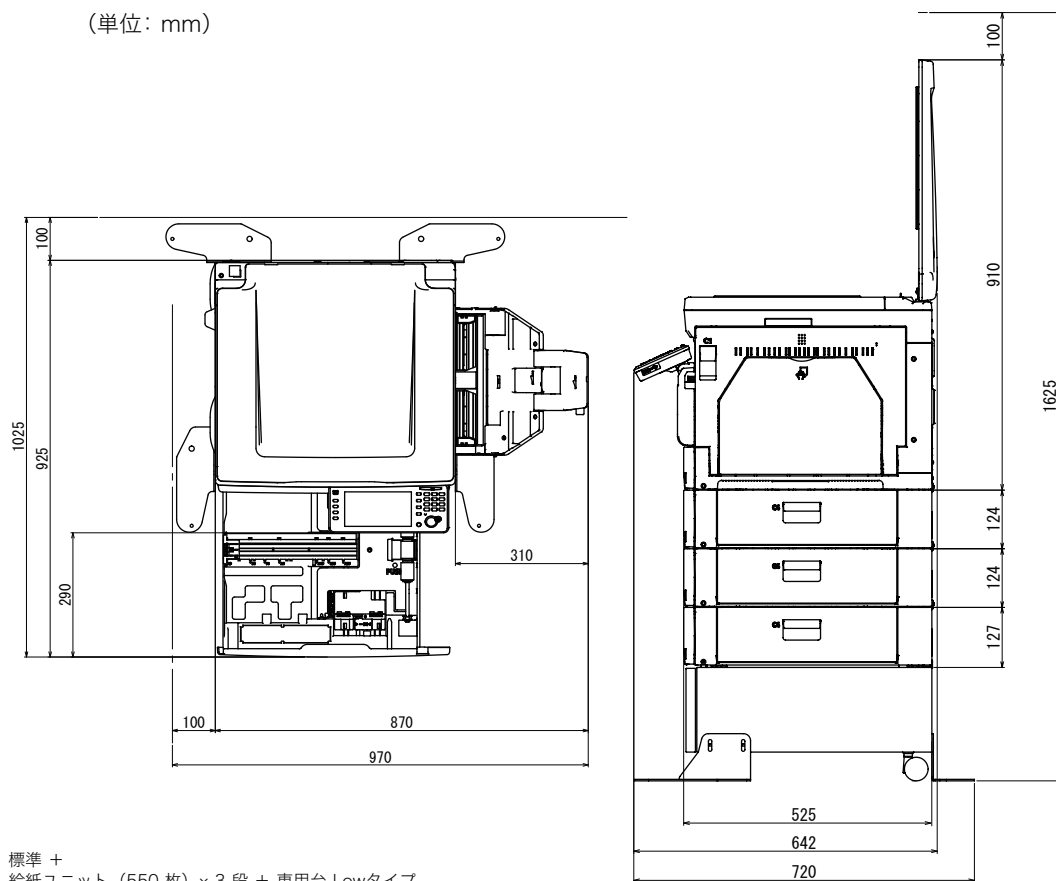
（単位：mm）



標準 +
給紙ユニット（300 枚）× 2 段 + 専用台 Highタイプ + ハンドセット



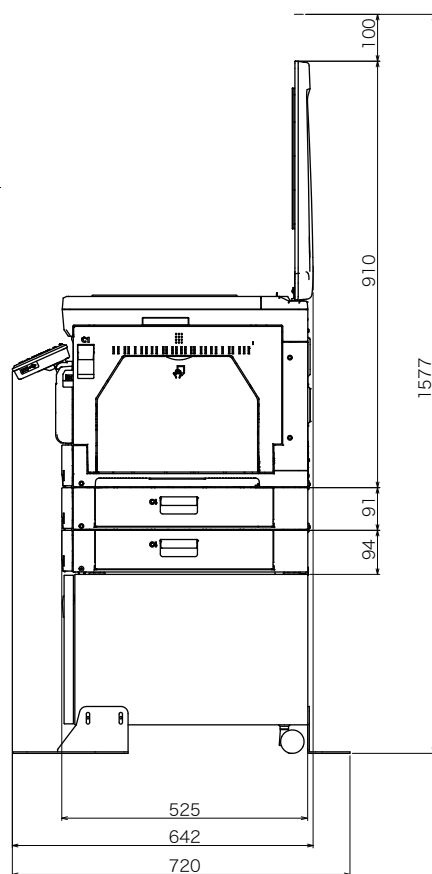
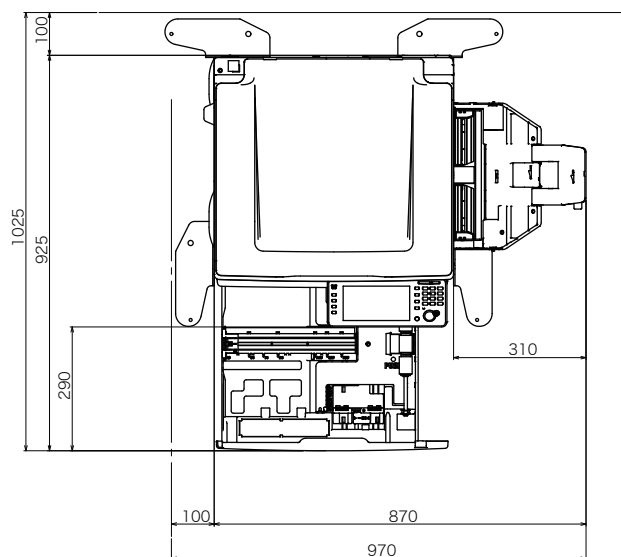
□ bizhub 2030 標準モデルの場合
給紙ユニット（550 枚）を装着している場合
（単位：mm）



標準 +
給紙ユニット（550 枚）× 3 段 + 専用台 Lowタイプ
+ ハンドセット

給紙ユニット（300 枚）を装着している場合

（単位：mm）

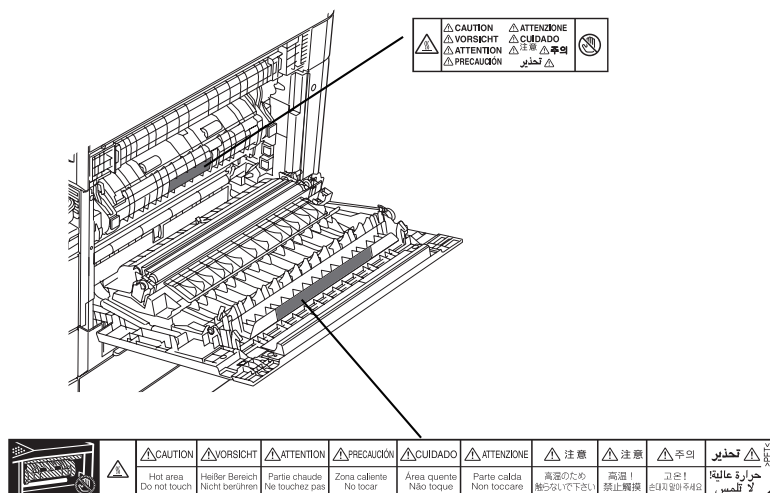


標準 +
給紙ユニット（300 枚）× 2 段 + 専用台 Highタイプ + ハンドセット

日常のメンテナンスについて

⚠注意

- 機器内部の定着器周辺は動作時に高温になります。紙づまりの処理や内部を点検するときは、やけどをする恐れがあるので注意して操作してください。



- 紙づまりの処理や、ドラムユニット、トナーユニット、廃トナーボトルを交換するときは、トナーが目や口に入らないように注意してください。万一、トナーが目や口に入った場合は、直ちにきれいな水で洗い流し、医師の診察を受けてください。
- トナーで手や衣服を汚さないように注意してください。手や衣服が汚れた場合は、きれいな水で洗い流してください。温水で洗うとトナーが定着し汚れがとれなくなる場合があります。
- 取扱説明書に記載されている以外のことは行わないでください。

換気について

⚠注意

定期的に部屋の換気をしてください。

本製品は使用中にオゾンを発生します。オゾンの量は人体に影響を及ぼすほどの量ではありませんが、換気の悪い場所で長時間使用したり、大量のプリントをしたりするときは、部屋の換気をしてください。

動作音について

ご使用される環境によって 動作音が気になる場合があります。

動作音が気になる場合は、機器を離れた場所や別室に設置するか、機器との間に仕切りなどを設置するなどの対応を推奨します。

消耗品の取り扱いについて

⚠ 警告

絶対に、トナーユニットや廃トナーボトルを火中に投げないでください。トナーに引火して、やけどや火災の原因になることがあります。

⚠ 注意

- トナーユニットを分解しないでください。トナーが漏れたときは、吸い込んだり直接皮膚につかないように注意してください。トナーが皮膚についた場合は、石けんを使い水で洗い流し、刺激が残る場合や吸い込んだ場合には直ちに医師に相談してください。
- トナーなどの消耗品は幼児の手が届かないところへ保管してください。もしトナーを飲んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

！お願い

- ドラムユニットやトナーユニット、用紙を以下のような場所には保管しないでください。
 - ◆ 火気のある場所
 - ◆ 直射日光のあたる場所
 - ◆ 高温多湿な場所
 - ◆ 急激な温度変化のある場所
 - ◆ ほこりの多い場所
 - ◆ 自動車内での長時間放置
- ドラムユニットの感光体表面（緑のローラー）に直接手を触れたり、直射日光にあてたりしないでください。印字画質不良の原因になります。
- ドラムユニットやトナーユニットを逆さに向けたり、斜めに放置したりしないでください。印字画質不良の原因になります。
- ドラムユニットやトナーユニットを分解しないでください。
- ドラムユニットやトナーユニットに強い衝撃や振動を与えないでください。
- ドラムユニットやトナーユニットは使用する直前まで袋から出さないでください。

製品のリサイクルについて

使用済み消耗品の回収について

弊社では、環境保全と再資源化のために、使用済みのドラムユニット、トナーユニットまたは廃トナーボトルの回収とリサイクルをしております。ご使用済みになりましたドラムユニット、トナーユニット、または廃トナーボトルは、サービス技術者が回収しますので、捨てずに個装箱に入れて保管してください。

なお、事情により回収にご協力いただけない場合には、トナーがこぼれないようにビニール袋などに入れて、地域の条例に従い処分してください。

使用済みのトナーユニットや廃トナーボトルを火中に投じないでください。粉じん爆発を起こす恐れがあり、大変危険ですので絶対におやめください。

トナーユニットは、環境への配慮と資源の有効利用を目的として、構成部品のリユースを行っております。リユース処理した部品につきましては、品質保証済みの商品としてお客様に提供しております。

使用済み機器の受け入れ場所について

弊社では、環境保全と資源の有効活用のために、回収された機器の部品や材料のリサイクルを行っております。

使用済み機器の回収については、お買い上げの販売店、またはサービス実施店へご連絡ください。

弊社担当者が直接回収に伺うか、指定の受け入れ場所をお知らせします（弊社担当者が直接回収する場合は、別途回収費用がかかります）。

なお、事情により回収にご協力いただけない場合には、廃棄物処理法に従い処分してください。

(空白ページ)

第 1 章

機器設定

各種登録一覧.....	1-2
優先応用機能を変更する.....	1-4
ジョブメモリーを使用する.....	1-7
ジョブメモリーを登録する・変更する	1-7
ジョブメモリーを削除する	1-9
ジョブメモリーリストをプリントする	1-9
ジョブメモリーを実行する	1-10
初期値を設定する	1-11
初期値設定一覧	1-12
節電モードを設定する	1-15
用紙に関する設定をする.....	1-20
プリント時に使用するカセットを指定する	1-20
用紙／仕分け設定一覧	1-22
リストをプリントする	1-26
プリントのしかた	1-26
リスト一覧.....	1-27
機器情報を確認する	1-29
ログインする／ログアウトする	1-30
ログインする.....	1-30
ログアウトする	1-31
IC カードでログインする	1-31
個人設定を使用する	1-32
個人設定をする	1-32
個人設定一覧.....	1-33
個人画面・共有画面を切り替える.....	1-34
文字を入力する	1-35
文字入力画面について	1-35
文字入力について	1-36
漢字・ひらがなを入力する	1-37
カタカナを入力する	1-39
英数字を入力する	1-40
記号を入力する	1-41
数字を入力する	1-42
空白（スペース）を入力する.....	1-42
ドメイン名を入力する	1-43
文字を削除する・挿入する	1-44

各種登録一覧

〈メニュー〉→[機器設定] タブ→[各種登録] と押したときに設定できる項目の一覧です。
宛先表やジョブメモリーの登録など、各機能で使用する便利な機能が登録できます。

機能	機能説明	参照ページ
宛先表	宛先の登録、変更、または削除ができます。	『スキャナー・ファクス編』第8章の「宛先を登録する」の「宛先を登録・変更する」
宛先グループ	宛先グループの登録、変更または削除ができます。	『スキャナー・ファクス編』第8章の「宛先を登録する」の「宛先グループを登録・変更する」
優先応用機能	よく使用する機能を優先応用機能に設定できます。	1-4
ジョブメモリー	ジョブメモリーの登録、変更または削除ができます。	1-7
お気に入り宛先	スキャナー画面のお気に入り宛先タブに表示する宛先の登録、変更、または削除ができます。	『スキャナー・ファクス編』第8章の「宛先を登録する」の「お気に入り宛先を登録する」
フォルダーショートカット	共有フォルダーのパスをショートカットとして登録、変更、または削除ができます。	『スキャナー・ファクス編』第8章の「宛先を登録する」の「フォルダーショートカットを登録・変更する」
FTP ショートカット	FTP サーバーのパスをショートカットとして登録、変更、または削除ができます。	『スキャナー・ファクス編』第8章の「宛先を登録する」の「FTP サーバーショートカットを登録・変更する」
TWAIN ボックス	TWAIN ボックスの名前と暗証番号を登録、または変更できます。	『スキャナー・ファクス編』第1章の「TWAIN ボックスに蓄積する」の「TWAIN ボックスの設定を変更する」
自動配信 ^{*1}	受信したファクスを配信する条件を登録できます。また、その条件の変更、削除ができます。	『スキャナー・ファクス編』第4章の「受信に関する設定」の「受信原稿を配信する（自動配信）」
ファイル名	読み取った画像データのファイル名を、あらかじめ登録できます。	『スキャナー・ファクス編』第8章の「その他の登録をする」の「ファイル名を登録・変更する」
文書分類名 ^{*2}	読み取った原稿をボックスに保存するときに設定できる文書分類名の登録や変更、削除ができます。	『スキャナー・ファクス編』第8章の「その他の登録をする」の「文書分類名を登録・変更する」
定型ドメイン名	文字入力画面に表示されるドメイン名を登録できます。	『スキャナー・ファクス編』第8章の「その他の登録をする」の「ドメイン名を登録・変更する」

機能	機能説明	参照ページ
Fコードボックス ^{*1}	Fコードボックスの登録、変更、削除、またはリストのプリントができます。	『スキャナー・ファクス編』第4章の「Fコード通信をする」の「Fコードボックスを登録する」
定型文	インターネットファクスやスキャン to E-mailの本文と件名をあらかじめ登録できます。	『スキャナー・ファクス編』第8章の「その他の登録をする」の「定型文を登録・変更する」
送信案内書文書登録 ^{*1 *3}	ファクス送信時に付ける簡単な文書を登録できます。	『スキャナー・ファクス編』第4章の「送信に関する設定」の「送付案内書を付ける (Information server を装着していないとき)」

* 1 bizhub 2030f のみ表示されます。

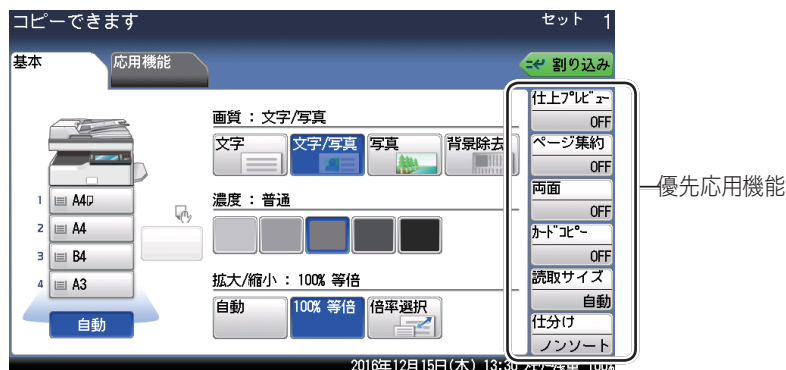
* 2 オプションの Information server が必要です。

* 3 オプションの Information server が装着されているときは表示されません。

優先応用機能を変更する

各モードの応用機能を待機画面に6つまで表示できます。よく使う機能を、待機画面から使えるように設定できます。

コピー画面の例



bizhub 2030

待機画面	割り当てられる機能
コピー画面	仕上がりプレビュー、ページ集約、仕分け、両面、読み取りサイズ、カードコピー、ミックス原稿 ¹ 、リピート、ページ分割、連続読み込み、小冊子 ¹ 、センターマーク印字、三つ折りマーク印字、鏡像、ジョブメモリー1～6 ³
スキャナー画面	読み取りプレビュー、画質、濃度、解像度、拡大／縮小、カラー／白黒、読み取りサイズ、両面読み取り ¹ 、ファイル名、連続読み込み、分割送信、ファイル形式、ページ分割、済スタンプ ^{1 2} 、短縮送信、メールアドレス、メール編集、メール履歴、スキャンパス通知、TWAIN 原稿、グループ送信、ジョブメモリー1～6 ³

* 1 自動両面原稿送り装置が装着されている場合のみ表示されます。

* 2 オプションの済スタンプキットが必要です。

* 3 ジョブメモリーは、ジョブの登録番号で選択してください。

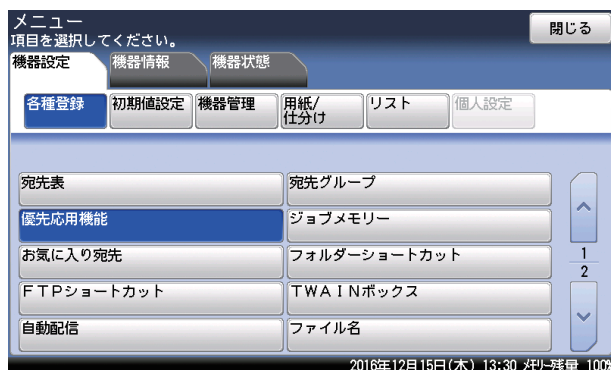
bizhub 2030f

待機画面	割り当てられる機能
コピー画面	仕上がりプレビュー、ページ集約、仕分け、両面、読み取りサイズ、カードコピー、ミックス原稿、リピート、ページ分割、連続読み込み、小冊子、センターマーク印字、三つ折りマーク印字、鏡像、ジョブメモリー1～6 ¹
スキャナー画面	読み取りプレビュー、画質、濃度、解像度、拡大／縮小 ² 、ファイル名 ³ 、カラー／白黒、読み取りサイズ、連続読み込み、両面読み取り、分割送信、ファイル形式、ページ分割、済スタンプ ⁴ 、短縮送信、メールアドレス、メール編集、メール履歴、文書分類 ⁵ 、コメント ⁵ 、スキャンパス通知、TWAIN 原稿、保存期間 ⁵ 、グループ送信、ジョブメモリー1～6 ¹

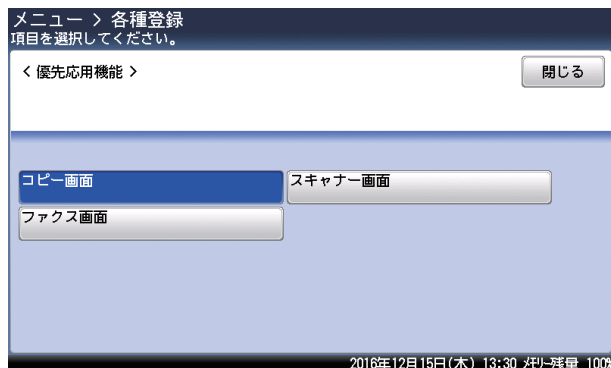
待機画面	割り当てられる機能
ファクス画面	読み取りプレビュー、画質、濃度、リダイヤル、オンフック、短縮送信、両面読み取り、読み取りサイズ、送付案内書、時刻指定、自動配信、自動受信、メモリー送信、発信元名、済スタンプ ^{*4} 、送信確認証、連続読み込み、セキュリティー受信、ID チェック、閉域送信、F コードポーリング、ポーリング、ポーリング原稿、F コード送信、F コード原稿、グループ送信、メールアドレス ^{*5} 、メール編集 ^{*5} 、メール履歴 ^{*5} 、分割送信 ^{*5} 、ファイル形式 ^{*5} 、POP 受信、回線選択 ^{*6} 、ジョブメモリー 1～6 ^{*1}

- * 1 ジョブメモリーは、ジョブの登録番号で選択してください。
- * 2 Information server 非装着時の初期値です。
- * 3 Information server 装着時の初期値です。
- * 4 オプションの済スタンプキットが必要です。
- * 5 オプションの Information server が必要です。
- * 6 オプションの 2 回線キットが必要です。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[各種登録] の順に押します。
- 3 [優先応用機能] を押します。

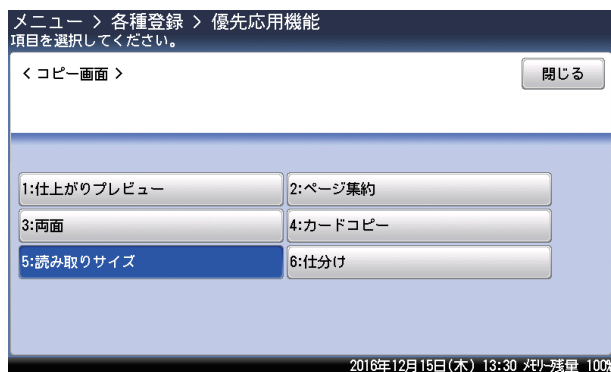


- 4 設定する待機画面を選択します。



ここでは、例として [コピー画面] を選択します。

5 変更したい優先応用機能を選択します。



6 優先応用機能として表示したい機能を選択し、[確定] を押します。

ジョブメモリーを使用する

よく使う設定をジョブメモリーに登録しておけば、設定のための操作の手間を省けます。

補足

- ・ジョブメモリーは6個まで登録できます。
- ・プリンター機能は登録できません。
- ・ジョブメモリーの登録中は、登録中のモードに該当するモードキーが点滅して、ジョブメモリーの登録中であることを知らせます。

1

機器設定

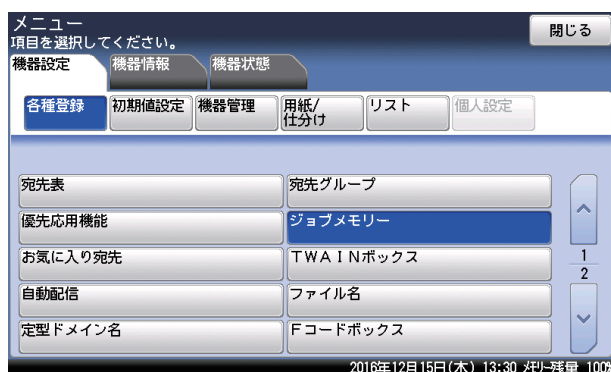
ジョブメモリーを登録する・変更する

ここではジョブメモリーの登録方法を説明します。変更の場合は、手順4で変更したいジョブメモリーを選択し、[変更]を押します。変更したい項目を選択して変更してください。

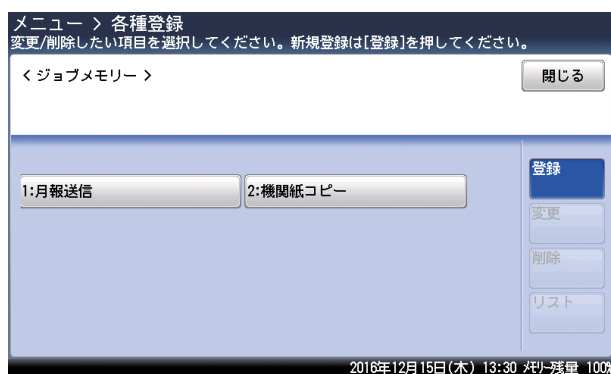
補足

コピー、スキャナー、ファクス待機画面の[応用機能]タブ→[ジョブメモリー]→[登録/変更]からも登録画面が表示できます。手順4から続けてください。

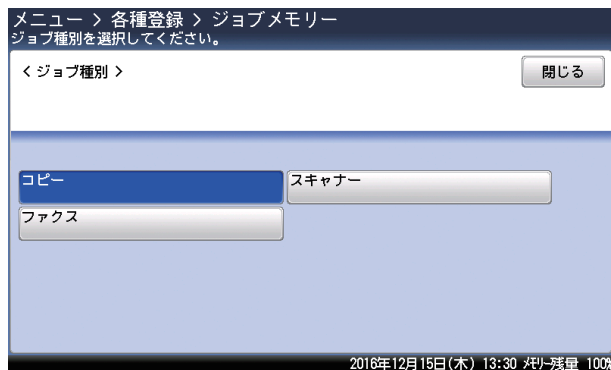
- 1 <メニュー>を押します。
- 2 [機器設定]タブ、[各種登録]の順に押します。
- 3 [ジョブメモリー]を押します。



- 4 [登録]を押します。



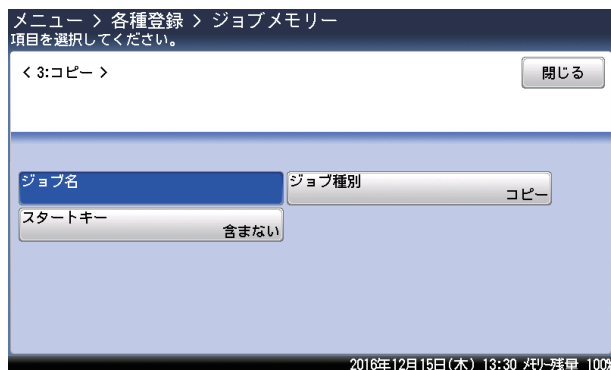
5 登録したいジョブの種別を選択します。



6 登録したい操作を行い、[確定] を押します。

ここで拡大／縮小コピーや濃度の調整など、ジョブメモリーを起動したときに呼び出したい設定を登録します。

7 ジョブ名を登録する場合は、[ジョブ名] を押します。



ジョブ名を登録しなかった場合は、ジョブの種別がジョブメモリーの一覧に表示されます。

8 ジョブ名を登録し、[確定] を押します。

- ・全角で 20 文字（半角で 40 文字）まで入力できます。
- ・文字入力のしかたは、「文字を入力する」(1-35 ページ) を参照してください。

9 [スタートキー] を押します。

10 ジョブメモリーにスタートキーを含む場合は [含む]、含まない場合は [含まない] を選択し、[確定] を押します。

- ・含まない： ジョブメモリーを実行するときに、設定を確認して手動でスタートさせたい場合を選択します。
- ・含む： ジョブメモリーを実行するときに、自動でジョブをスタートさせたい場合を選択します。

11 [閉じる] を押します。

ジョブメモリーを削除する

補足

コピー、スキャナー、ファクス待機画面の〔応用機能〕タブ→〔ジョブメモリー〕→〔登録 / 変更〕からも登録画面が表示できます。手順 4 から続けてください。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 〔機器設定〕タブ、〔各種登録〕の順に押します。
- 3 〔ジョブメモリー〕を押します。
- 4 削除したいジョブメモリーを選択し、〔削除〕を押します。
- 5 〔はい〕を押します。
〔いいえ〕を押すと、手順 4 の画面に戻ります。

ジョブメモリーリストをプリントする

登録したジョブメモリーの一覧をプリントできます。

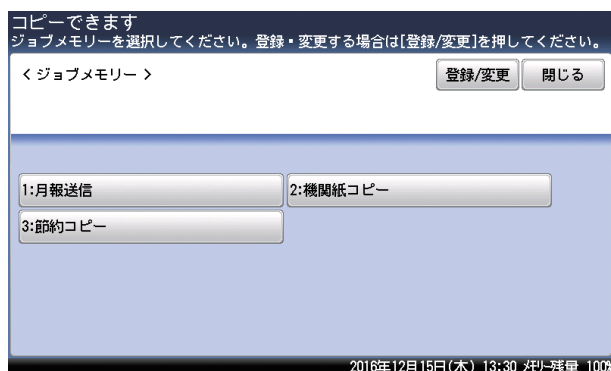
補足

- コピー、スキャナー、ファクス待機画面の〔応用機能〕タブ→〔ジョブメモリー〕→〔登録 / 変更〕からもジョブメモリーリストをプリントできます。手順 4 から続けてください。
- 〈メニュー〉→〔機器設定〕タブ→〔リスト〕→〔ジョブメモリーリスト〕からも、ジョブメモリーリストをプリントできます。手順 5 から続けてください

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 〔機器設定〕タブ、〔各種設定〕を押します。
- 3 〔ジョブメモリー〕を押します。
- 4 〔リスト〕を押します。
- 5 〔はい〕を押します。
 - ・「両面印字」を〔ON〕にすると、用紙の両面にプリントします。
 - ・「ページ集約」を〔ON〕にすると、リスト 2 枚分を 1 枚の用紙に並べてプリントします。
 - ・パンチの目印になるセンターマークをプリントします。センターマークを付けたい位置を選択します。

ジョブメモリーを実行する

- 1 コピー、スキャナー、またはファクス待機画面で【応用機能】タブを押します。
- 2 【ジョブメモリー】を押します。
- 3 実行したいジョブメモリーを選択します。

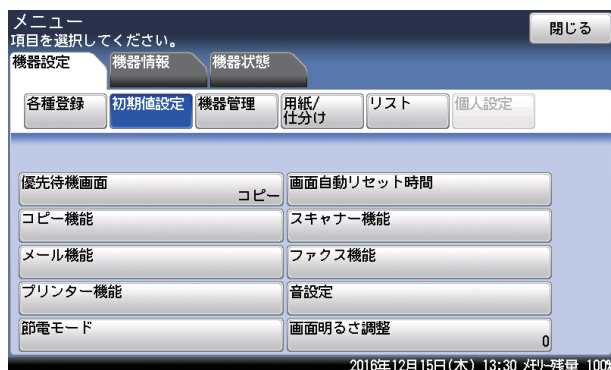


- ・ジョブメモリーに〈スタート〉まで登録されているときは、登録したジョブが始まります。
- ・ジョブメモリーに〈スタート〉が登録されていないときは、登録した内容が表示されます。
- ・[登録 / 変更] を押すと、ジョブメモリーの登録や変更 (→ 1-7 ページ)、削除 (→ 1-9 ページ)、リストのプリント (→ 1-9 ページ) ができます。

初期値を設定する

初期値とは、〈リセット〉を押したときに設定される値のことです。何も操作せずに一定時間放置したときも、初期値に戻ります。よく使う設定を初期値にしておくと、操作のたびに設定する手間が省けます。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[初期値設定] の順に押します。



- 3 設定する項目を選択します。
- 4 初期値を選択し、[確定] を押します。

初期値設定一覧

機能	機能説明	設定値
優先待機画面	電源スイッチを ON にしたときや、画面自動リセット時間で設定した時間が経ったときに表示される待機画面を設定できます。	コピー スキャナー ファクス ^{*1} プリンター
画面自動リセット時間	各画面を待機画面に戻すまでの時間を設定できます。 • コピー画面、スキャナー画面 • ファクス画面^{*1} • プリンター画面 リセット時間： 何も操作をしなかった場合、設定をリセット（初期値に戻す）し待機画面に戻るまでの時間。 読み取り終了後にリセット： ON に設定すると、原稿の読み取り終了後すぐに、設定をリセットします。 OFF に設定すると、リセット時間で設定した時間後にリセットされます。 読み取り終了後にログアウト： ON に設定すると、原稿の読み取り終了後すぐに、ログアウトします。	リセット時間 1 ～ 10 分： <u>3 分</u> 読み取り終了後にリセット <u>OFF</u> ON 読み取り終了後にログアウト <u>OFF</u> ON リセット時間 1 ～ 10 分： <u>3 分</u> 読み取り終了後にログアウト <u>OFF</u> ON リセット時間 1 ～ 10 分： <u>3 分</u>
コピー機能	コピー機能の初期値を設定できます。 詳細は、『コピー編』第 3 章の「初期値を設定する」を参照してください。	
スキャナー機能	スキャナー機能の初期値を設定できます。 詳細は、『スキャナー・ファクス編』第 8 章の「初期値を設定する」の「スキャナー機能の初期値を設定する」を参照してください。	
メール機能	スキャン to メールやインターネットファクス、メール定型文の初期値を設定できます。 詳細は、『スキャナー・ファクス編』第 8 章の「初期値を設定する」の「電子メール送信の初期値を設定する」を参照してください。	
ファクス機能 ^{*1}	ファクス機能の初期値を設定できます。 詳細は、『スキャナー・ファクス編』第 8 章の「初期値を設定する」の「ファクス機能の初期値を設定する」を参照してください。	

機能	機能説明	設定値
プリンター機能	プリンター機能の初期値を設定できます。 詳細は、『プリンター編』第2章の「プリンター機能に関する設定」を参照してください。	
音設定	各種音の設定ができます。	
操作確認音	操作ボタンを押したときに、鳴らす音色と音量が設定できます。 以下の画面で、それぞれ音色と音量が設定できます。 コピー画面 スキャナー画面 ファクス画面 ^{*1} プリンター画面	音色 OFF 低音 中音 高音 音量 1～7段階： <u>4</u>
動作完了音	コピーやファクス、プリント動作の完了を音で知らせます。以下の場合に、鳴らす音色と音量が設定できます。 コピー完了：コピーが完了したとき スキャン完了：スキャンが完了したとき。 ファクス送信完了 ^{*1} ： ファクスやインターネットファクス送信が完了したとき ファクス受信完了 ^{*1} ： ファクスやインターネットファクス受信が完了したとき ファクス受信印字完了 ^{*1} ： 受信した文書のプリントが完了したとき PC プリント完了：PC プリントが完了したとき リストプリント完了： リストのプリントが完了したとき 原稿ガラス読み取り完了： 原稿ガラスでの読み取りが完了したとき	音色 OFF タイプ1 タイプ2 タイプ3 音量 1～7段階： <u>4</u>

機能	機能説明	設定値
注意音	紙づまりのお知らせやメモリーオーバーなどのエラーをブザー音で知らせます。以下の場合に、鳴らす音色と音量が設定できます。 紙づまりのお知らせ： 用紙づまりが発生したとき 用紙切れのお知らせ： 用紙が無くなったとき トナー交換のお知らせ： トナーの交換が必要なとき PC プリントエラー： PC プリント時にエラーが起きたとき ファクス通信エラー^{*1}： ファクス・インターネットファクス通信時にエラーが起きたとき メモリーオーバー： スキャン中にメモリーオーバーが起きたとき カバー閉め忘れ警告： いずれかのカバーが開いているとき 原稿づまり^{*2}： 自動両面原稿送り装置に原稿がつまっているとき ドラム交換のお知らせ： ドラムの交換が必要なとき 点検エラー：点検を受けてほしいとき 受信プリント待ち警告^{*1}： 受信したファクスをプリントする用紙がなくなったとき その他： 上記のお知らせやエラーに含まれない項目の注意音を一括して設定します。	音色 OFF <u>ON</u> 音量 1 ～ 7 段階：4
呼び出し音 ^{*1}	ハンドセット（オプション）が無くても、ファクスの着信時に呼出ベル音が鳴るように設定できます。	OFF <u>ON</u> 音量 1 ～ 7 段階：<u>4</u>
節電モード	設定の詳細については、「節電モードを設定する」(1-15 ページ) を参照してください。	
画面明るさ調整	タッチパネルの明るさを調整します。	-3 ～ +3：<u>0</u>

* 1 bizhub 2030f のみ表示されます。

* 2 自動両面原稿送り装置が装着されている場合のみ表示されます。

補 足

__の付いている値が、工場出荷時の設定です。

節電モードを設定する

□ 節電モードを設定する

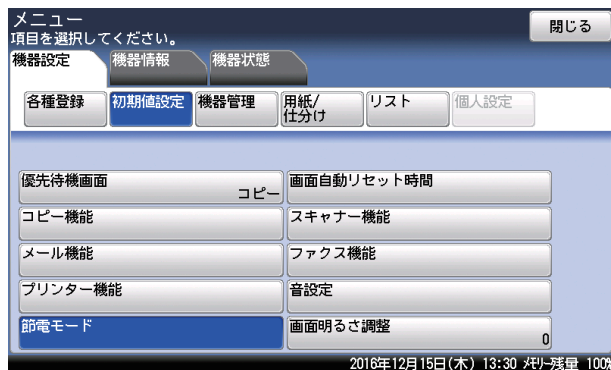
機器は、一定時間以上使っていないと自動的に節電モードに入り、電力を節約できる節電機能があります。設定できる項目は以下のとおりです。

項目	内容
節電モードの設定	節電モードの設定を変更できます。出荷時の設定は、モード 2 です。 モード 1：節電モードから待機画面に復帰するまでの時間が、モード 2 より短くなります。ただし、節電中の消費電力がモード 2 よりも高くなります。また、最小電力モードの設定はできません。 モード 2：モード 1 よりも節電中の消費電力を低くできます。ただし、待機画面に復帰するまでの時間は、モード 1 より長くなります。 節電モードは〈節電〉を押すと解除できますが、モード 1 を設定したときはより多くの方法で節電モードを解除できます。(→ 1-18 ページ)
節電モードへの移行時間	節電モードへ移行するまでの時間 (1 ～ 480 分) を設定できます。 (出荷時設定：1 分) 節電モードを働かないように設定することはできません。
節電モード時刻指定	
開始時刻	ON に設定すると、節電モードを自動的に開始する時刻を設定できます。
解除時刻	ON に設定すると、節電モードを自動的に解除する時刻を設定できます。
解除曜日	節電モードを自動的に解除する曜日を設定できます。 たとえば、解除曜日に月曜日から金曜日までを指定すると、土曜日と日曜日は解除時刻になっても節電モードが解除されません。 解除曜日の設定は、節電モードの解除時刻を設定したときのみ可能です。
最小電力モード ^{*1}	最小電力モードを ON に設定すると、指定した開始時刻と解除時刻の間の消費電力が通常の節電モードよりも抑えられますが、最小電力モード中はファクス受信以外の操作ができません。最小電力モード中にプリントジョブを実行する場合は、〈節電〉を押して最小電力モードを解除してください。 最小電力モードの設定は、モード 2 で節電モードの開始時刻と解除時刻を設定したときのみ可能です。

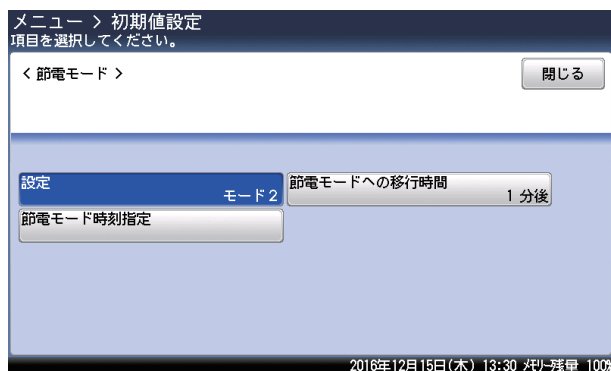
* 1 Information server やヒーターキット (スキャナー用)、IC カード認証装置が装着されているときは、表示されません。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[初期値設定] の順に押します。

3 [節電モード] を押します。



4 [設定] を押します。



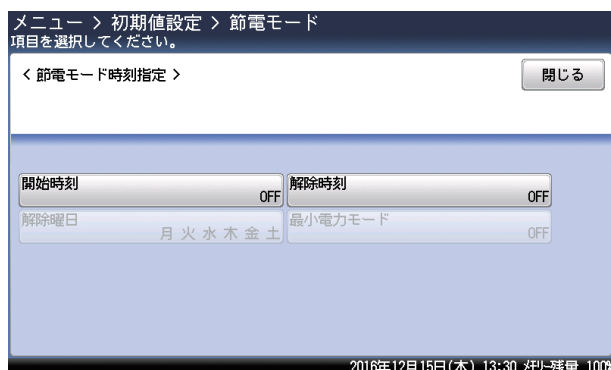
5 [モード 1] または [モード 2] を選択し、[確定] を押します。

6 [節電モードへの移行時間] を押します。

7 節電モードへの移行時間を設定し、[確定] を押します。 [+] と [-] や、テンキーを使っても設定できます。

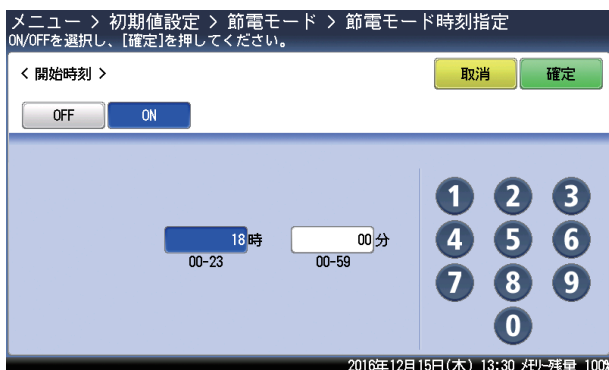
8 [節電モード時刻指定] を押します。

9 [開始時刻] を押します。



開始時刻を設定しないときは、手順 12 進みます。

10 [ON] を押します。



[OFF] を選択すると、節能モード開始時刻設定が OFF になります。

11 節能モードの開始時刻を設定し、[確定] を押します。

テンキーを使って設定します。

12 [解除時刻] を押します。

13 [ON] を押します。

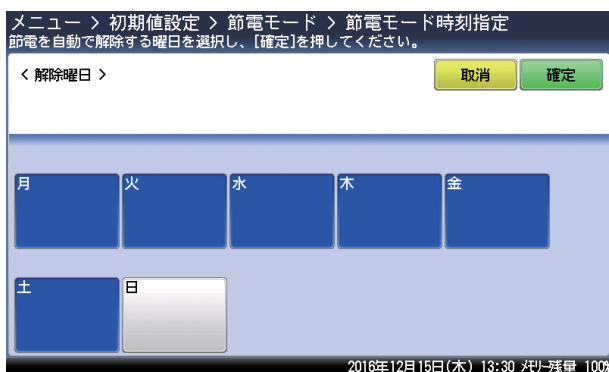
[OFF] を選択すると、節能モード解除時刻設定が OFF になります。

14 節能モードの解除時刻を設定し、[確定] を押します。

テンキーを使って設定します。

15 [解除曜日] を押します。

16 節能モードを解除する曜日を選択し、[確定] を押します。



オプションの Information server、ヒーターキット（スキャナー用）、または IC カード認証装置が装着されているときは、手順はこれで終了です。

17 [最小電力モード] を押します。

18 [ON] または [OFF] を選択し、[確定] を押します。

□ 節電モードの解除について

節電モードは〈節電〉を押すと、いつでも解除できます。

また、「モード 1」が設定されているときは、下記のいずれの場合でも、節電モードを解除できます。

モード 1 に設定したときは、次の動作でも節電モードが解除できます。

- 自動両面原稿送り装置に原稿をセットしたとき
- 原稿押さえカバーを開けたとき
- 操作パネル上のキーを押したとき
- タッチパネルに触ったとき
- カセットやカバーを開けたとき
- 手差しトレイに用紙をセットしたとき

モード 1 とモード 2 で最小電力モードになっていないときは、次の場合に自動的に解除されます。

- 〈節電〉を押したとき
- 節電モード解除時刻になったとき
- ファクスを受信したとき
- 時刻指定送信で送信時刻になったとき
- PC-FAX を送信したとき
- パソコンからプリントアウトしたとき

□ 最小電力モードの制限について

次の機能を設定している場合は、最小電力モードを ON に設定しても、最小電力モードにはなりません。

	設定	参照
ファクスの受信に関する設定	ファクス受信モードを、ファクス待機以外に設定している。	『スキャナー・ファクス編』第 4 章の「受信のしかた」の「受信モードを選択する」
	ファクス受信モードを、ファクス待機に設定しているときで、呼び出しベル回数を 0 回に設定している。	『スキャナー・ファクス編』第 8 章の「初期値を設定する」の「ファクス機能の初期値を設定する」
	ファクシミリ通信網の設定を ON にしているとき。	
	ナンバーディスプレイの設定を ON にしている。	『スキャナー・ファクス編』第 4 章の「相手先を表示する（ナンバー・ディスプレイ）」
ネットワークの設定	アクセス制限を設定している。	『ネットワーク機能・Information server 編』第 5 章の「セキュリティを設定する」の「アクセス制限を設定する」
	IPv6 を設定している。	『ネットワーク機能・Information server 編』第 4 章の「ネットワーク環境を設定する（TCP/IP 設定）」

設定		参照
ネットワークの設定	プリントに使用するポートの設定で、IPP を ON にしている。	『ネットワーク機能・Information server 編』第 5 章のセキュリティーを設定する」の「マシンポリシーを設定する」
	インターネット時刻を設定している。	『ネットワーク機能・Information server 編』第 4 章の「インターネット時刻を設定する」
接続	機器とコンピューターを USB ケーブルで接続しているときで、コンピューターの電源が入っている。	—

次の場合は、最小電力モードは設定できません。

- Information server 装着時
- ヒーターキット（スキャナー用）装着時
- IC カード認証装置装着時

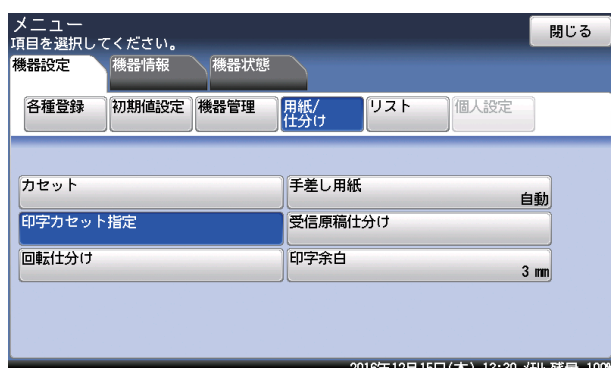
用紙に関する設定をする

受信やコピーに使用する用紙の選択など、用紙に関する設定ができます。

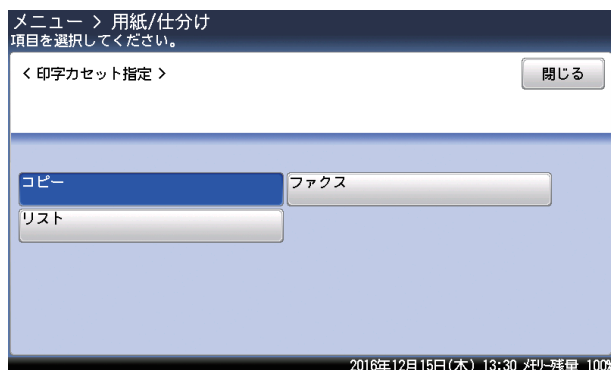
プリント時に使用するカセットを指定する

コピー、ファクス受信、リストプリントで使用するカセットを指定できます。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[用紙／仕分け] の順に押します。
- 3 [印字カセット指定] を押します。



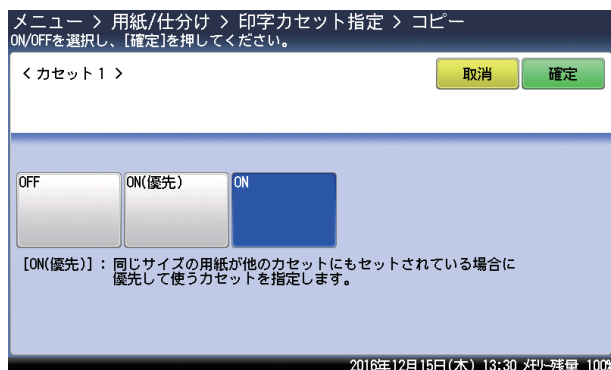
- 4 設定するモードを選択し、[確定] を押します。



ここでは、例として [コピー画面] を選択します。

- 5 設定する用紙カセットまたは手差しトレイを選択します。
 - ・手順4で「リスト」を選択した場合は、手差しトレイは選択できません。
 - ・オプションで装着されているカセットは、装着されているときだけ表示されます。

6 設定を選択し、[確定] を押します。



- ・ OFF : この用紙カセットにセットされている用紙を使用しない。
- ・ ON : この用紙カセットにセットされている用紙を使用する。
- ・ ON (優先) : この用紙カセットにセットされている用紙を使用する。同じ用紙がほかの用紙カセットにもセットされているときは、この用紙カセットを優先して使用する。

用紙／仕分け設定一覧

用紙／仕分け設定で設定した各種機能の設定状況は、機器設定リストでも確認できます。
(→ 1-26 ページ)

機能		機能説明	設定値
カセット	カセット 1	セットした用紙のサイズを設定します。「自動」に設定すると、A3、B4、A4、A4 ☐ 、A5 ☐ 、B5 ☐ が自動で検知されます。 詳細は、『すぐに使える簡単設定ガイド』の「用紙をセットする」の「カセットに用紙をセットする」を参照してください。	自動、A3、A4、A4 ☐ 、A5 ☐ 、B4、B5 ☐ 、8K、16K、16K ☐ 、Letter、Letter ☐ 、Legal、Legal 13、F4
	カセット 2 ^{*1}	セットした用紙のサイズを設定します。 詳細は、『すぐに使える簡単設定ガイド』の「用紙をセットする」の「カセットに用紙をセットする」を参照してください。	A3、A4、A4 ☐ 、A5 ☐ 、B4、B5 ☐ 、8K、16K、16K ☐ 、Letter、Letter ☐ 、Legal、Legal 13、F4
	カセット 3 ^{*1}		
	カセット 4 ^{*1}		
手差し用紙	用紙サイズ	手差しトレイで使用する用紙サイズの初期値を設定できます。	自動、A3、A4、A4 ☐ 、A5、A5 ☐ 、B4、B5、B5 ☐ 、8K、16K、16K ☐ 、Letter、Letter ☐ 、H.LTR ☐ 、Legal、Legal 13、11×17、F4、はがき、角形 2 号、長形 3 号、長形 4 号、洋形 4 号、不定形 1、不定形 2、不定形 3、不定形 4、不定形 5
	用紙種類	手差しトレイで使用する用紙種類の初期値を設定できます。	普通紙、封筒／はがき／厚紙
	不定形登録／変更	手差しトレイで使える不定形用紙の初期値を設定できます。 詳細は、『すぐに使える簡単設定ガイド』の「用紙をセットする」の「不定形サイズを登録する」を参照してください。 用紙サイズを登録するときは、縦と横の比率が 2.5 倍以内に収まるように設定してください。	不定形 1 不定形 2 不定形 3 不定形 4 不定形 5 用紙名 : 10 文字まで 用紙種類 : 普通紙、封筒 / はがき / 厚紙 用紙サイズ : 210(90-297) mm × 297(140-432) mm

機能		機能説明	設定値
印字カセット指定	コピー	コピー時に用紙選択を「自動」に設定している場合に、自動選択の対象とする用紙カセットを指定できます。	カセット 1 ～ 4 ^{*1}
	ファクス ^{*2}	ファクス受信時に使用する用紙カセットを指定できます。	手差しトレイ OFF ON ON (優先)
	リスト	リスト印字に使用する用紙カセットを指定できます (手差しトレイは使用できません)。 [OFF] この用紙カセットを使用しない。 [ON] この用紙カセットを使用する。 [ON (優先)] 同じサイズの用紙がほかの用紙カセットにもセットされている場合、この用紙カセットを優先して使用する。	
受信原稿仕分け ^{*2}		受信原稿の 1 枚目をプリントする用紙カセットを設定します。1 枚目と 2 枚目の用紙サイズや用紙の色を変えたりすることで、受信ごとに原稿を仕分けられます。 設定の詳細は、『スキャナー・ファクス編』第 4 章の「受信に関する設定」の「受信原稿を仕分けする」を参照してください。	設定 OFF、ON カセット指定 カセット 1 カセット 2 ^{*1} カセット 3 ^{*1} カセット 4 ^{*1} 手差しトレイ 先頭ページにプリントする OFF、ON

機能		機能説明	設定値
回転仕分け	コピー部ごと	複数部のコピーをする場合に、1 部ごと（仕分けが「ソート」に設定されているとき）またはページごと（仕分けが「ノンソート」に設定されているとき）に用紙の向きを変えて仕分けすることができます。 補足 ・「コピー部ごと」回転仕分けできる用紙のサイズは A4 だけで、同じサイズの下紙がタテ、ヨコともに別々の用紙カセット（手差しトレイも可）にセットされていなければなりません。 ・「印字カセット指定」で、コピーで使用を許可している用紙カセットや手差しトレイだけが使えます。 ・手動で用紙カセットを選択したときは、「回転仕分け」を行いません。用紙カセットを自動選択したときだけ有効です。 ・「ミックス原稿」が ON のときは「回転仕分け」を行いません。 ・コピーの途中でどちらかの用紙カセットの下紙が無くなったときは、「回転仕分け」せずに残っている方の用紙を使ってコピーを続けます。 ・コピー部数が 1 部の場合は、「回転仕分け」はしません。	OFF ON

機能	機能説明	設定値
回転仕分け ジョブごと	コピー、ファクス、インターネットファクス、PC プリントやリストのプリント時などに、ジョブごとに用紙の向きを変えて仕分けすることができます。 補足 ・「ジョブごと」回転仕分けできる用紙のサイズは A4 だけで、同じサイズ用紙がタテ、ヨコともに別々の用紙カセット（手差しトレイも可）にセットされていなければなりません。 ・手動で用紙カセットを選択したときは、「回転仕分け」を行いません。用紙カセットを自動選択したときだけ有効です。 ・「印字カセット指定」で、使用を許可している用紙カセットや手差しトレイだけが使えます。 ・プリントの途中でどちらかの用紙カセットの用紙が無くなったときは、「回転仕分け」せずに残っている方の用紙を使ってプリントを続けます。 ・上記以外でも、条件によっては回転仕分けできない場合があります。	OFF ON
印字余白	用紙の端で、プリントされない範囲を指定できます。 主にコピー使用時に反映されます。 余白を少なく設定しても、プリンタードライバーからの印刷には反映されません。	1~4 mm : <u>3 mm</u>

- * 1 オプションの給紙ユニットの装着が必要です。
* 2 bizhub 2030f のみ表示されます。

補足

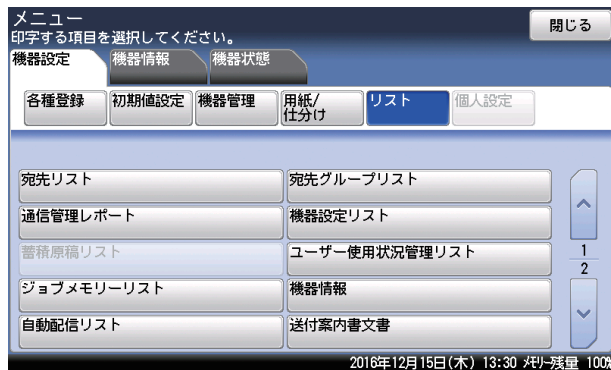
__の付いている値が、工場出荷時の設定です。

リストをプリントする

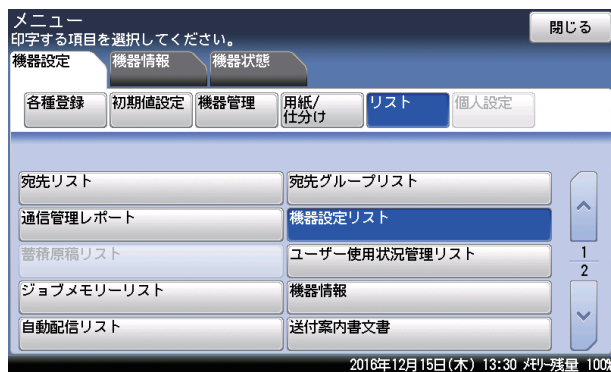
プリントのしかた

ここでは、機器設定リストのプリントを例に説明します。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[リスト] の順に押します。



- 3 [機器設定リスト] を押します。



- 4 [はい] を押します。
 - ・「両面印字」を [ON] にすると、用紙の両面にプリントします。
 - ・「ページ集約」を [ON] にすると、リスト 2 枚分を 1 枚の用紙に並べてプリントします。
 - ・パンチの目印になるセンターマークをプリントします。センターマークを付けたい位置を選択します。

リスト一覧

リスト名	プリント内容	参照ページ
宛先リスト	宛先表に登録されている宛先の一覧をプリントします。	『スキャナー・ファクス編』第8章の「宛先を登録する」の「宛先を登録・変更する」
宛先グループリスト	宛先グループとして登録されている宛先の一覧をプリントします。	『スキャナー・ファクス編』第8章の「宛先を登録する」の「宛先グループを登録・変更する」
通信管理レポート	ファクスの送受信 ^{*1} 、電子メールの送受信、スキャン to フォルダー、スキャン to FTP サーバーの送信結果の一覧をプリントします。	『スキャナー・ファクス編』第7章の「通信履歴を管理する」
機器設定リスト	〈メニュー〉→[機器設定] タブの「初期値設定」、「機器管理」、「用紙／仕分け」の設定内容をプリントできます。	1-26
蓄積原稿リスト	ポーリング原稿、Fコード原稿、送信予約原稿、受信原稿、PC ファクス送信原稿など、蓄積原稿のリストをプリントします。	『スキャナー・ファクス編』第4章
ユーザー使用状況管理リスト	各モードで使用したページ数をユーザーごとにカウントし、料金とファクス通信時間の合計をプリントできます。 ユーザーが機器にログインせずに使用した場合は、ゲストユーザーとして集計されます。	2-13
ジョブメモリーリスト	登録されているジョブメモリーの一覧をプリントします。	1-9
機器情報	機器の IP アドレスやネットワーク設定、オプションや消耗品の状態、各モードのプリント枚数などをプリントします。	1-29
自動配信リスト ^{*1}	設定されている配信条件の一覧をプリントします。	『スキャナー・ファクス編』第4章の「受信に関する設定」の「受信原稿を配信する（自動配信）」
送付案内書文書 ^{*1*2}	登録されている送付案内書の内容をプリントします。	『スキャナー・ファクス編』第4章の「送信に関する設定」の「送付案内書を付ける（Information server を装着していないとき）」
Fコードボックスリスト ^{*1}	登録されている F コードボックスの一覧をプリントします。	『スキャナー・ファクス編』第4章の「Fコード通信をする」の「Fコードボックスを登録する」
ダイレクトメール防止リスト ^{*1}	ダイレクトメール防止の設定内容をプリントします。	『スキャナー・ファクス編』第4章の「セキュリティ機能」の「ダイレクトメールを防止する」

リスト名	プリント内容	参照ページ
LDAP 設定リスト ^{*3}	登録されている LDAP サーバーの一覧をプリントします。	2-25
ルート証明書リスト ^{*3}	プライベート認証局のルート証明書の拇印（フィンガープリント）をプリントできます。	ー
通信予約リスト ^{*1}	予約されている通信ジョブの一覧をプリントします。	『スキャナー・ファクス編』第7章の「通信予約を管理する」

* 1 bizhub 2030f のみ表示されます。

* 2 オプションの Information server が装着されているときは表示されません。

* 3 オプションの Information server が必要です。

機器情報を確認する

メニュー画面にある機器情報で、機器の IP アドレスやネットワーク設定、オプションや消耗品の状態、各モードのプリント枚数などが確認できます。

補足

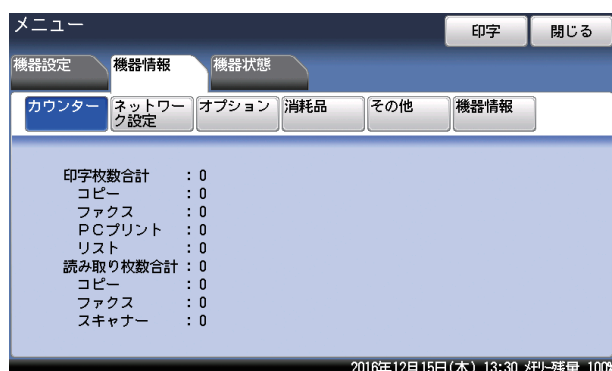
- ・〈メニュー〉→〔機器設定〕タブ→〔リスト〕→〔機器情報〕からも機器情報をプリントできます。
- ・機器情報に表示されるの消耗品の残量表示は、大まかな目安としてください。

1 〈メニュー〉を押します。

bizhub 2030 では、〈機器情報〉を押すと、手順 3 に進みます。

2 〔機器情報〕タブを押します。

3 確認したい機器情報の項目を選択し、機器情報を確認します。



4 プリントする場合は〔印字〕を押します。

プリントしない場合は〔閉じる〕を押します。

5 〔はい〕を押します。

- ・「両面印字」を〔ON〕にすると、用紙の両面にプリントします。
- ・「ページ集約」を〔ON〕にすると、リスト 2 枚分を 1 枚の用紙に並べてプリントします。
- ・パンチの目印になるセンターマークをプリントします。センターマークを付けたい位置を選択します。

ログインする／ログアウトする

ユーザー認証を受けて機器を使用するときは、ログインします。ログインすると、以下の機能が利用できます。

- 個人設定
- 送信者情報（ユーザー登録された情報の利用）
- セキュリティープリント
- ユーザー使用状況管理
- 通信管理レポート（送信者欄にユーザー名をプリント）
- スキャンパス通知

補足

ユーザーの登録については、『ネットワーク機能・Information server 編』第3章の「使用するユーザーを登録する」を参照してください。

ログインする

- 1 〈ログイン〉を押します。
- 2 ユーザー名を選択し、[確定]を押します。

The screenshot shows a login interface. At the top, it says 'メニュー > カウンター > ログイン' and 'ユーザー名を選択し、[確定]を押してください。'. Below this is a text input field labeled 'ユーザー名' with a 'ユーザー名入力' button, a '取消' button, and a '確定' button. Below the input field is a list of 10 users, each with a button labeled '001:ユーザー01' through '010:ユーザー10'. To the right of the list is a vertical scrollbar with '1' and '2' visible. At the bottom, it shows the date and time '2016年12月15日(木) 13:30' and the battery level '残り 100%'.

- ・[ユーザー名入力]を押すと、ユーザー名を直接入力できます。
- ・マシンポリシーの設定によっては、ユーザー名選択画面ではなくユーザー名入力画面が表示されます。

- 3 パスワードを入力し、[確定]を押します。

パスワードを設定していない場合は、この手順は不要です。

補足

- ・マシンポリシー設定については、『ネットワーク機能・Information server 編』第5章の「セキュリティを設定する」の「マシンポリシーを設定する」を参照してください。
- ・ゲストアカウントの設定が無効になっている場合は、機器を使用するときにログインが必要です。登録されているユーザーが一人で、パスワードが設定されていないときは、そのユーザーで自動的にログインします。

ログアウトする

ログアウトするには、手動でログアウトする方法と自動的にログアウトする方法があります。ここでは、手動でログアウトする方法を説明します。

補足

- 自動ログアウト時間の設定については、「[自動ログアウト時間を設定する](#)」(2-37 ページ) を参照してください。
- 読み取り終了後にログアウトするように設定できます。設定の詳細は、「[画面自動リセット時間](#)」(1-12 ページ) を参照してください。

- 1 **〈ログイン〉** を押します。
- 2 **〔はい〕** を押します。
〔いいえ〕 を押すと、ログアウトしません。

IC カードでログインする

オプションの IC カード認証装置が装着されている場合は、IC カードを読み取り部にかざすことでログインできます。

補足

- オプションの IC カード認証装置が必要です。
- あらかじめ IC カード認証の設定を有効にしてください。(→ [2-38 ページ](#)) また、カードとユーザーを登録してください。(→ [2-40 ページ](#))

- 1 **IC カードを読み取り部にかざします。**
パスワードを設定してない場合や認証方法を「IC カード認証」に設定している場合は、「(ユーザー名) ログインしました。」と表示され、機器にログインされます。
認証方法を「IC カード認証 + パスワード」に設定している場合は、次の手順に進みます。
- 2 **パスワードを入力し、〔確定〕を押します。**

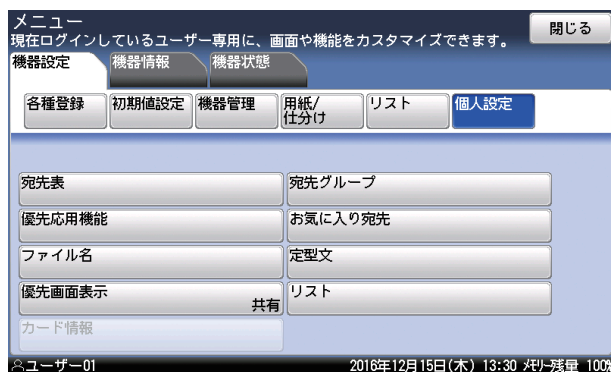
個人設定を使用する

個人設定では、ユーザーごとに設定をカスタマイズできます。
個人設定を表示するには、ログインが必要です。

個人設定をする

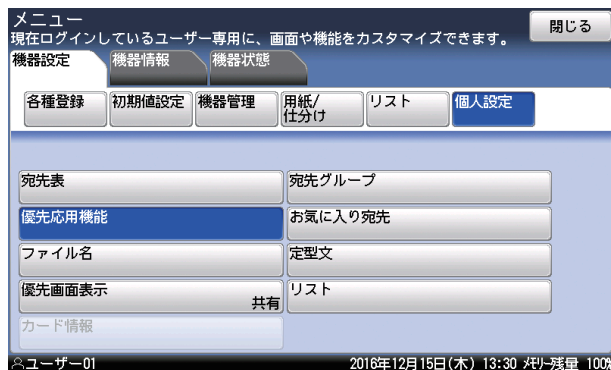
ここでは、優先画面表示の設定を例に説明します。

- 1 ログイン操作を行います。(→ 1-30 ページ)
- 2 〈メニュー〉を押します。
- 3 [機器設定] タブ、[個人設定] の順に押します。



ユーザーログインをしていない状態で[個人設定]を押すと、「ログインしてください」というメッセージが表示されます。

- 4 [優先画面表示]を押します。



設定項目の詳細は、「個人設定一覧」を参照してください。(→ 1-33 ページ)

- 5 [共有] または [個人] を選択し、[確定] を押します。

個人設定一覧

機能	機能説明	設定値	参照ページ
宛先表	ユーザーごとに宛先の登録、変更、または削除ができます。		『スキャナー・ファクス編』第8章の「宛先を登録する」の「宛先を登録・変更する」
宛先グループ	ユーザーごとに宛先グループの登録、変更、削除、またはリストのプリントができます。		『スキャナー・ファクス編』第8章の「宛先を登録する」の「宛先グループを登録・変更する」
優先応用機能	ユーザーログインしたときのコピー画面、ファクス画面、スキャナー画面の優先応用機能を設定できます。	優先応用機能カスタマイズ OFF ON	1-4
お気に入り宛先	ユーザーごとにスキャナー画面のお気に入りタブに表示する宛先を登録、変更、または削除できます。		『スキャナー・ファクス編』第8章の「宛先を登録する」の「お気に入り宛先を登録する」
フォルダーショートカット	ユーザーごとに共有フォルダーのパスをショートカットとして登録、変更、または削除できます。		『スキャナー・ファクス編』第8章の「宛先を登録する」の「フォルダーショートカットを登録・変更する」
ファイル名	ユーザーごとにファイル名の登録、変更、または削除ができます。		『スキャナー・ファクス編』第8章の「その他の登録をする」の「ファイル名を登録・変更する」
文書分類名 ^{*1}	ユーザーごとに文書分類名の登録、変更、または削除ができます。		『スキャナー・ファクス編』第8章の「その他の登録をする」の「文書分類名を登録・変更する」
定型文	ユーザーごとに定型文の登録、変更、または削除ができます。		『スキャナー・ファクス編』第8章の「その他の登録をする」の「定型文を登録・変更する」
送信確認証 ^{*1 2}	ユーザーごとにファクスの送信確認証を設定できます。	個人設定 OFF ON 送信確認証設定 OFF 印字 メール	『スキャナー・ファクス編』第7章の「送信結果を確認する(送信確認証)」
優先画面表示	ユーザーログインしたときに表示する画面を、共有設定または個人設定のいずれかから選択できます。	共有 個人	—
リスト	個人宛先表の宛先リストと個人宛先グループのリストをプリントできます。		『スキャナー・ファクス編』第8章の「宛先を登録する」の「宛先を登録・変更する」
カード情報	オプションのICカード認証装置が装着されている場合は、ユーザーのカード情報が登録できます。		2-40

* 1 オプションの Information server が必要です。

* 2 bizhub 2030f のみ表示されます。

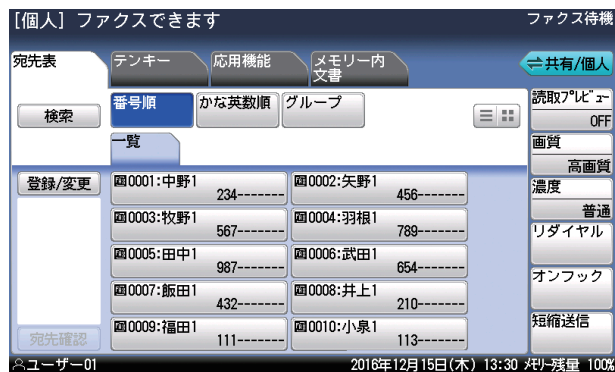
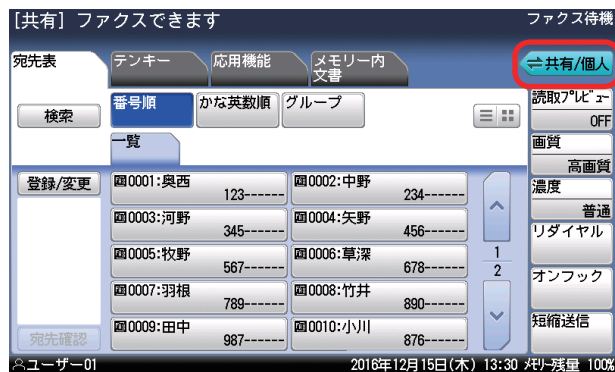
補足

__の付いている値が、工場出荷時の設定です。

個人画面・共有画面を切り替える

ログイン中に、共有画面に切り替えるには〔共有 / 個人〕を押します。再び、個人画面に切り替えるには、〔共有 / 個人〕を押します。

1 ログインしているときに、〔共有 / 個人〕を押します。



文字を入力する

1

機器設定

発信元や宛先表の相手先など、文字を入力するときに参照してください。

入力できる文字は、漢字（全角）、ひらがな（全角）、カタカナ（全角／半角）、英字（全角／半角）、数字（全角／半角）、記号（全角／半角）です。

漢字は JIS 第一水準、JIS 第二水準が入力できます。

文字入力画面について

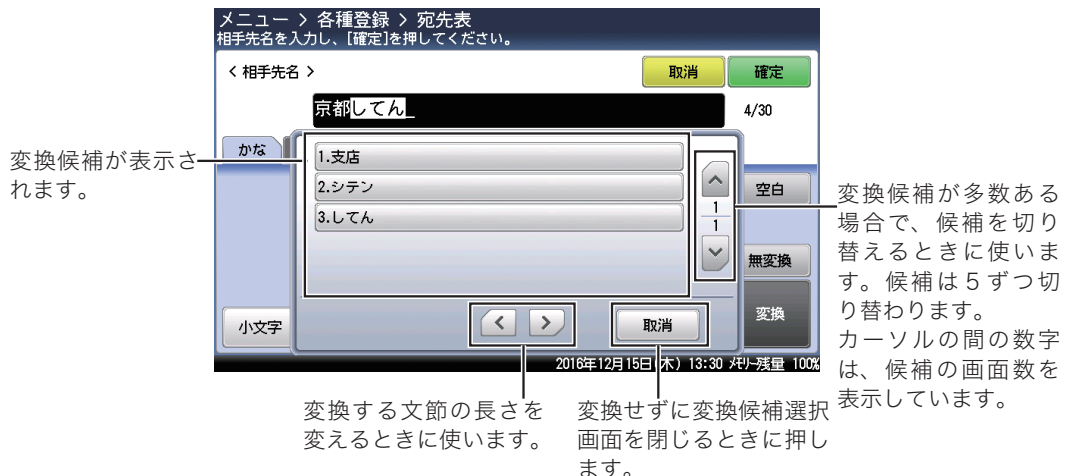
□ 文字入力画面

ひらがなを入力しているときの画面の例です。



□ 変換候補選択画面

ひらがなを入力中に [変換] を押すと、漢字の変換候補が表示されます。



文字入力について

□ 確定と未確定

文字が反転表示されているときは変換できる状態です。これを「未確定」といいます。[無変換]を押して、文字が変換できない状態に（入力を決定）することを「確定」といいます。未確定の文字は 15 文字まで入力できます。



補足

かな入力モードで入力した文字は、すべて未確定になります。それ以外の入力モードでは確定した状態で入力されます。

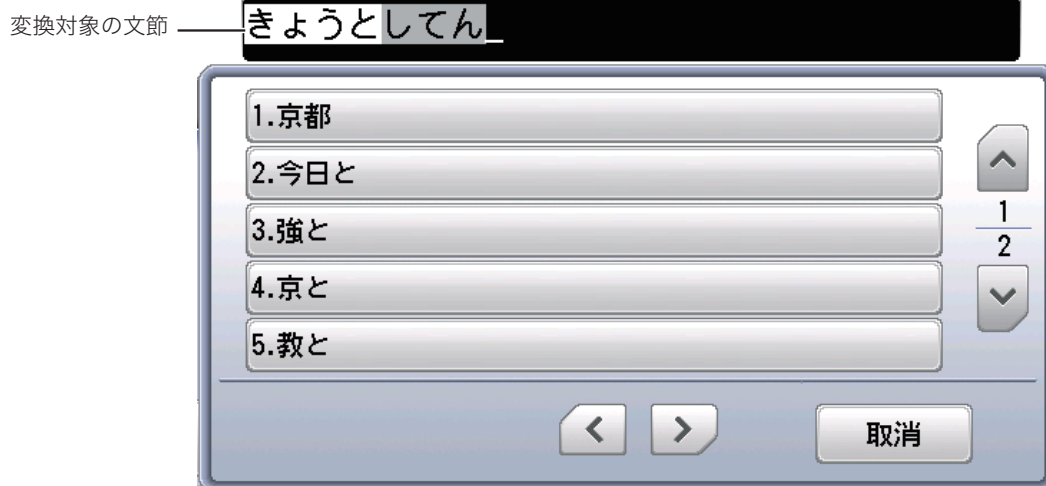
□ 全角と半角

文字を入力するとき、全角文字と半角文字があります。全角は半角の 2 倍の大きさです。半角文字で 24 文字入力できる場合、全角文字では 12 文字入力できます。

□ 文節表示

変換途中の文字は、文節と呼ばれる単位で区切られて表示されます。複数の文節がある場合は、初めの文節だけが変換対象になります。変換対象になっている文節は背景が白く表示されます。

文節の長さを変えるには、[<] と [>] を使用します。



漢字・ひらがなを入力する

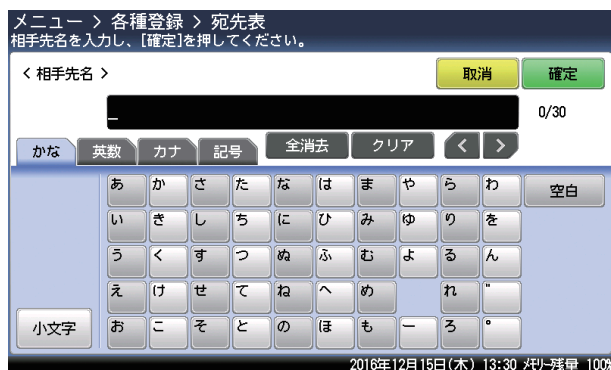
1

機器設定

□ 漢字・ひらがなを入力する

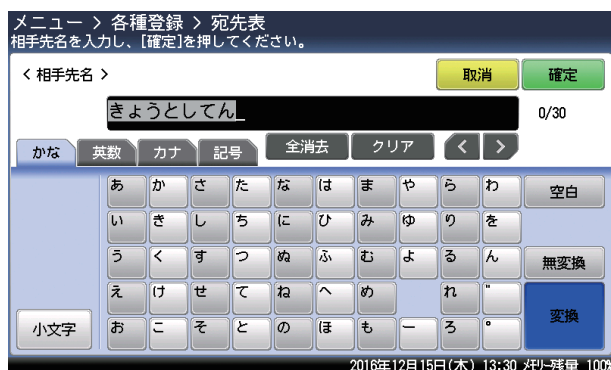
1 [かな] タブを押して、文字入力画面にひらがなを表示させます。

2 入力する文字を押します。



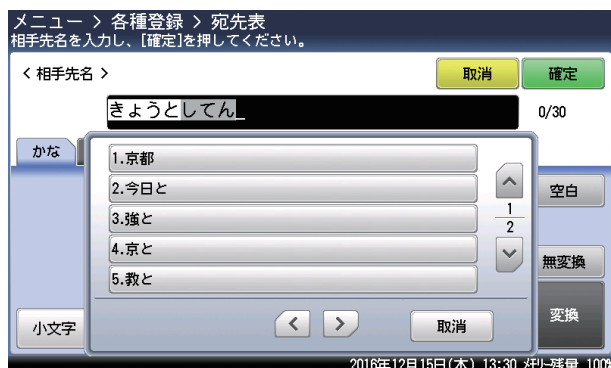
・(濁点) や ° (半濁点) を入力するときは、文字を入力したあとに、[`] や [°] を押します。

3 漢字に変換する場合は、[変換] を押します。



ひらがなを入力する場合は、[無変換] を押します。

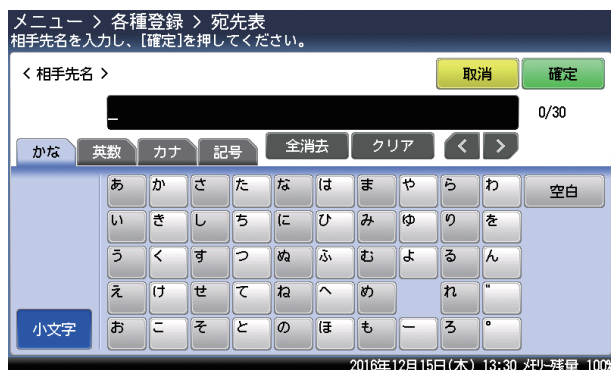
4 変換したい漢字を選択します。



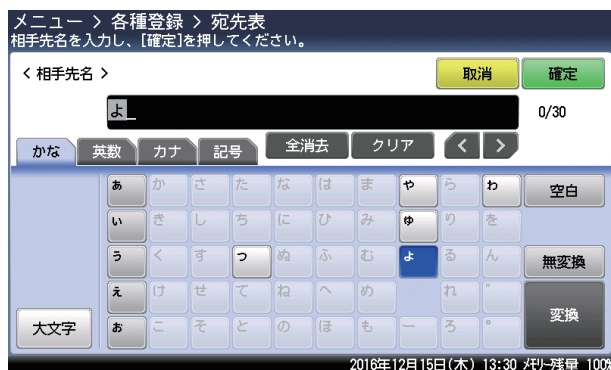
- ・変換候補が多数あるときは、[^] や [v] を使って表示を切り替えます。
- ・[<] や [>] を押すと、変換する文節の長さを変更できます。(→ 1-36 ページ)
- ・[取消] を押すと、手順 3 の画面に戻ります。

□ 小文字を入力する

- 1 [かな] タブを押して、文字入力画面にひらがなを表示させます。
- 2 [小文字] を押して、小文字を表示させてます。



- 3 入力する文字を押します。



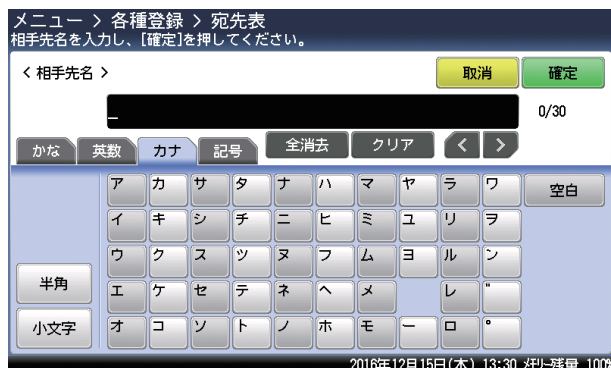
再び大文字を入力するときは、[大文字] を押します。

カタカナを入力する

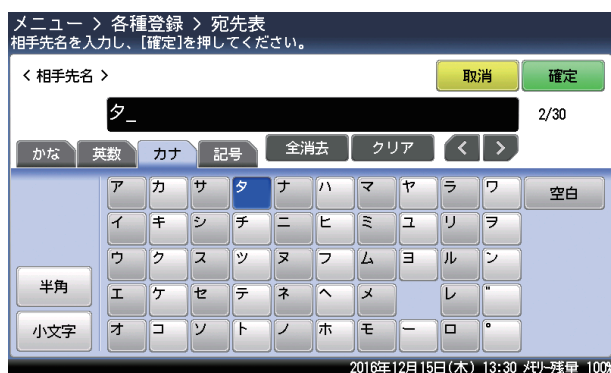
1

機器設定

1 [カナ] タブを押して、文字入力画面にカタカナを表示させます。



2 入力する文字を押します。

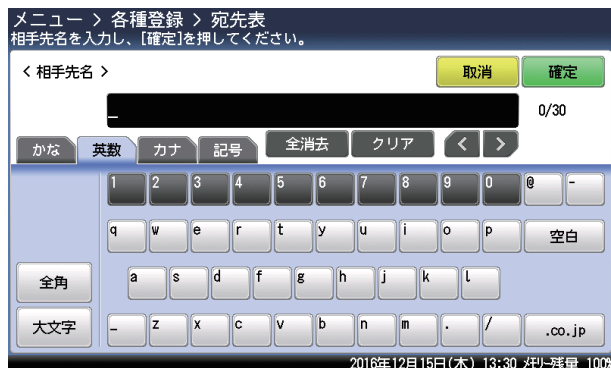


- ・°（濁点）や°（半濁点）を入力するときは、文字を入力したあとに、[°] や [°] を押します。
- ・小文字を入力するときは、[小文字] を押します。再び大文字を入力するときは、[大文字] を押します。
- ・半角のカタカナを入力するときは、[半角] を押します。再び全角のカタカナを入力するときは、[全角] を押します。

英数字を入力する

アルファベットと数字が入力できます。

1 [英数] タブを押して、文字入力画面にアルファベットを表示させます。



2 入力する文字を押します。

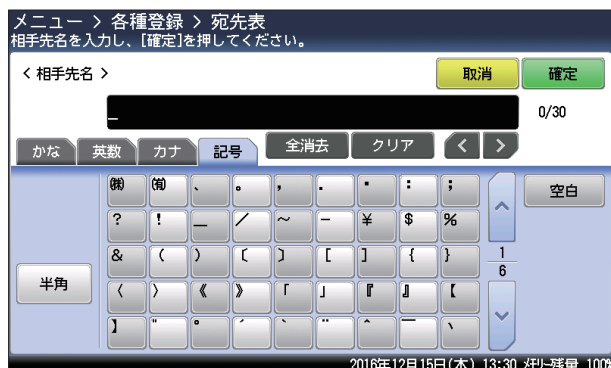
- ・アルファベットの太文字を入力するときは、[大文字] を押します。再び小文字を入力するときは、[小文字] を押します。
- ・全角のアルファベットを入力するときは、[全角]を押します。再び半角のアルファベットを入力するときは、[半角] を押します。

記号を入力する

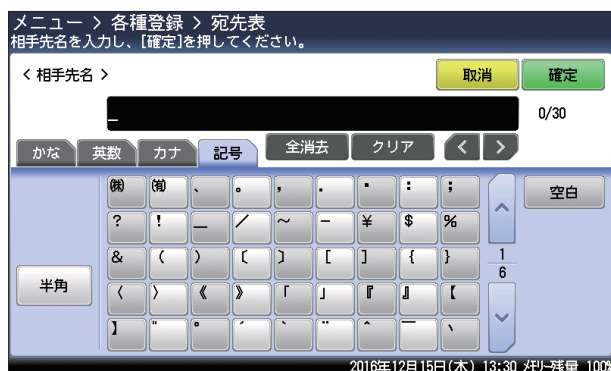
1

機器設定

- 1 【記号】 タブを押して、文字入力画面に記号を表示させます。



- 2 入力する記号を押します。



半角の記号を入力するときは、[半角]を押します。再び全角を入力するときは、[全角]を押します。全角と半角では入力できる記号の種類が違います。

数字を入力する

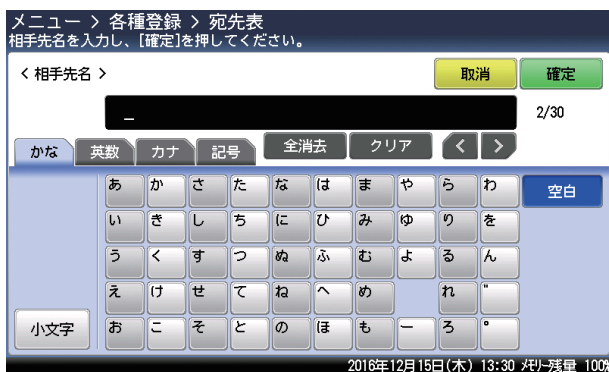
- 1 テンキーを押して、数字を入力します。



- ・全角の入力画面のときは、全角の数字が入力されます。半角の入力画面のときは、半角の数字が入力されます。
- ・数字は英数字の文字入力画面からも入力できます。

空白（スペース）を入力する

- 1 [空白] を押します。



全角の入力画面のときは、全角の空白が入力されます。半角の入力画面のときは、半角の空白が入力されます。

ドメイン名を入力する

メールアドレスを入力する場合などに、ドメイン名ボタンを利用して、ドメイン名を簡単に入力できます。

補足

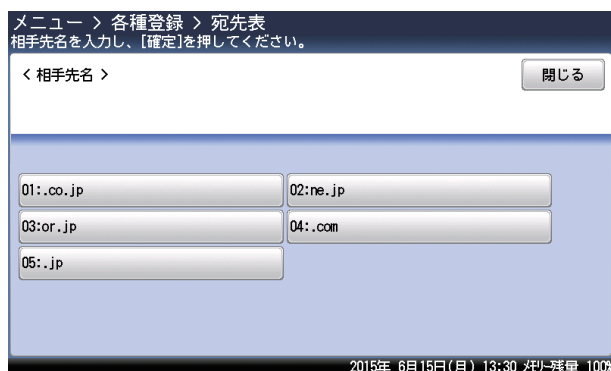
ドメイン名の登録のしかたは、『スキャナー・ファクス編』第8章の「その他の登録をする」の「ドメイン名を登録・変更する」を参照してください。

- 1 [英数] タブを押して、文字入力画面にアルファベットを表示させます。
- 2 [.co.jp] または [ドメイン名] を押します。



- ・ドメイン名が登録されていないときは、[.co.jp] が表示されます。
- ・ドメイン名が登録されているときは、[ドメイン名] が表示されます。
- ・ドメイン名を登録していないときは、「.co.jp」が入力されます。これで手順は終了です。

- 3 入力したいドメイン名を押します。



文字を削除する・挿入する

文字を削除するには、削除したい文字までカーソルを移動し、[クリア] を押します。
文字を挿入するには、挿入したい位置までカーソルを移動し、文字を入力します。

□ 文字を削除する

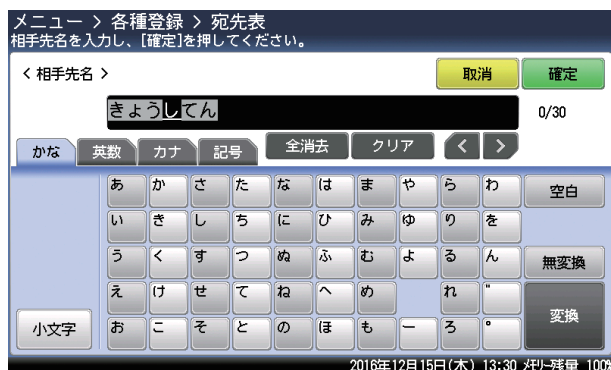
- 1 [＜] または [＞] を押して、削除したい文字の位置までカーソルを移動します。



- 2 [クリア] を押します。
直前に入力した文字は、[クリア] を押すだけで削除できます。

□ 文字を挿入する

- 1 [＜] または [＞] を押して、挿入したい位置の右側までカーソルを移動します。



- 2 文字を入力します。
カーソルの前に入力した文字が挿入されます。

第 2 章

管理設定

機器管理設定一覧	2-2
セキュリティーコードを設定する	2-4
管理者パスワードを設定する	2-4
プロテクトコードを設定する	2-6
設定や操作を制限する（機能プロテクト設定）	2-8
機能プロテクトを設定する	2-9
機能プロテクトを使う	2-11
モード禁止設定をする	2-12
ユーザー使用状況を管理する	2-13
通貨単位を設定する	2-13
料金を設定する	2-15
ユーザー使用状況管理リストをプリントする	2-16
集計データを消去する	2-17
ネットワーク設定をする	2-18
TCP / IP 設定をする	2-19
LDAP サーバーを登録する	2-21
LDAP サーバーを削除する	2-25
LDAP 設定リストをプリントする	2-25
アーカイブ設定をする	2-26
ユーザー認証方法を設定する	2-30
機器設定をコピーする	2-31
USB メモリーにエクスポートする	2-31
USB メモリーから機器にインポートする	2-34
自動ログアウト時間を設定する	2-37
IC カード認証を設定する	2-38
IC カード認証を有効にする	2-38
認証方法を設定する	2-39
IC カード情報を登録する	2-40
セキュリティープリントのオートリリース機能を設定する	2-42

機器管理設定一覧

設置モードやセキュリティ通信機能の設定、ネットワーク設定など、機器に関する重要な設定ができます。

管理者パスワードを設定しておくとし、[機器管理] を押すたびに管理者パスワードを入力する画面が表示され、管理者以外による設定変更には制限をかけられます（一度管理者パスワードを入力すると、[機器設定] タブ内の設定は続けて行えます）。

機能	機能説明	設定値	参照ページ
セキュリティ通信機能 ¹⁾	閉域通信や ID チェック送信、宛先確認、セキュリティ受信など、さまざまなセキュリティ通信の設定ができます。	閉域送信、閉域受信、ID チェック送信、宛先 2 度押し、ダイヤル 2 度押し、パスコードポーリング OFF ON パスコード 0000 ～ 9999 : (登録なし) 宛先確認 OFF ON <u>同報のみ</u> 同報送信 OFF <u>ON</u> セキュリティ受信 OFF ON (現在時刻) ダイレクトメール防止 OFF ON	『スキャナー・ファクス編』第 4 章の「セキュリティ機能」
機能プロテクト設定	管理者パスワードやプロテクトコードを利用して、さまざまな機能を管理できます。	プロテクトしない プロテクトする 禁止	2-9
モード禁止設定	コピー・スキャナー・ファクス・プリンターの使用禁止を設定できます。	OFF ON	2-12
ユーザー使用状況管理	各ユーザーのコピーやファクスの総ページ数や通信時間の累計をリセットできます。	—	2-13
ネットワーク設定	機器をネットワーク上で使用するためのネットワーク設定ができます。	—	2-18
設置モード	機器を使用するために必要な設定ができます。	—	『スキャナー・ファクス編』第 8 章の「初期設定をする(設置モード)」

機能	機能説明	設定値	参照ページ
機器設定コピー	機器設定データを同機種ほかの機器へコピーできます。	—	2-31
全データ／設定の初期化	宛先表やコピー・ファクスの機能設定、蓄積文書など、[機器設定] タブで設定されているデータや機器に保存されているデータを消去できます。データ消去後は一度電源スイッチを OFF にしてください。 ⚠注意 一度消去したデータは復旧できません。	—	—
管理者パスワード	管理者パスワードを設定できます。管理者パスワードを設定すると、管理者以外による「機器管理」内の設定変更には制限がかけられます。	出荷時には管理者パスワードは設定されていません。	2-4
プロテクトコード	プロテクトコードを設定できます。プロテクトコードは機能プロテクト設定やセキュリティー受信を使用するときに必要です。	出荷時にはプロテクトコードは設定されていません。	2-6
自動ログアウト時間	何も操作しなかった場合に、ログイン状態から自動的にログアウトするまでの時間を設定します。	1-10 分： <u>3 分</u>	2-37
IC カード認証	オプションの IC カード認証装置が装着されている場合のみ、認証の詳細が設定できます。	設定 OFF ON	2-38

* 1 bizhub 2030f のみ表示されます。

補足

__の付いている値が、工場出荷時の設定です。

セキュリティーコードを設定する

機器にはセキュリティーを設定する「鍵」として、管理者パスワードとプロテクトコードの2種類の鍵が設けられます。

管理者パスワードを設定すると、[機器管理] 設定の操作に制限をかけることができます。プロテクトコードは、機能プロテクト設定により操作制限をかけられた機能や、セキュリティー受信機能を使用するときに必要な4桁の数字です。

管理者パスワードを設定する

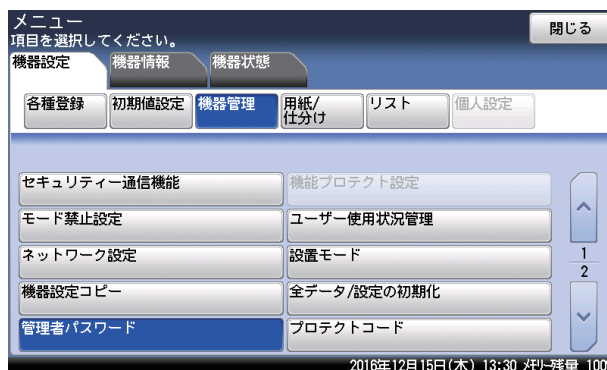
管理者パスワードは、半角のアルファベットと数字、記号、スペースで28文字まで入力できます。設定後はパスワードを控え、保管してください。

！お願い

管理者パスワードを忘れた場合は、機器を初期化して再設定する必要があります。お買い上げの販売店、またはサービス実施店へご連絡ください。

□ 管理者パスワードを設定する

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 [管理者パスワード] を押します。



4 設定したいパスワードを入力し、[確定] を押します。

半角のアルファベットと数字、記号、スペースで 28 文字まで入力できます。

5 再度パスワードを入力し、[確定] を押します。

□ 管理者パスワードを変更する・削除する

パスワードを削除したい場合は、新しいパスワードを何も入力せずに、[確定] を押します。

1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。

3 管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。

4 [管理者パスワード] を押します。

5 新しいパスワードを入力し、[確定] を押します。

・半角のアルファベットと数字、記号で 28 文字まで入力できます。

・パスワードを削除したい場合は、新しいパスワードを何も入力せずに、[確定] を押します。

6 再度新しいパスワードを入力し、[確定] を押します。

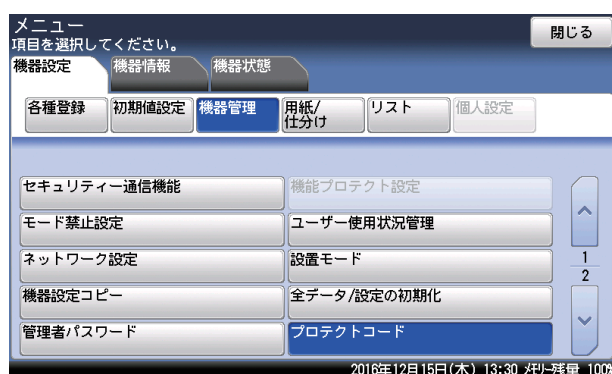
パスワードを削除したい場合は、新しいパスワードを何も入力せずに、[確定] を押します。

プロテクトコードを設定する

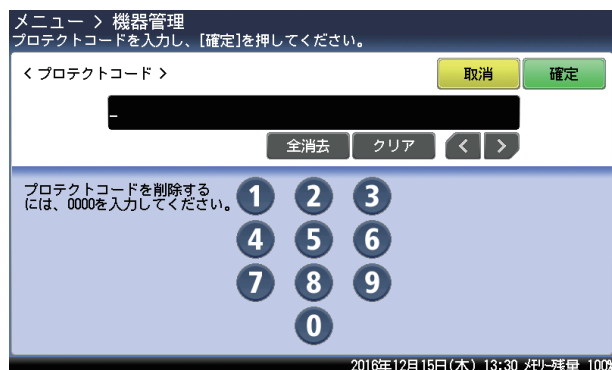
プロテクトコードは任意の4桁の数字を設定できます。設定後は番号を控え、保管してください。

□ プロテクトコードを設定する

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定]を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 4 [プロテクトコード] を押します。



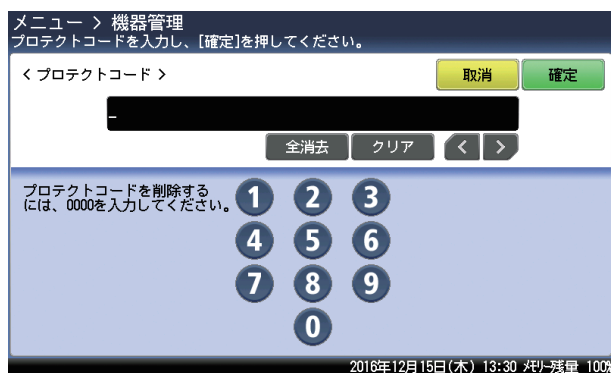
- 5 プロテクトコードを入力し、[確定] を押します。



4 桁の数字を入力してください。

□ プロテクトコードを変更する・削除する

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定]を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 4 [プロテクトコード] を押します。
- 5 現在のプロテクトコードを入力し、[確定] を押します。
- 6 新しいプロテクトコードを入力し、[確定] を押します。



プロテクトコードを削除する場合は、「0000」と入力し、[確定] を押します。

設定や操作を制限する（機能プロテクト設定）

管理者パスワードやプロテクトコードを利用して機能を管理できます。
管理できる機能は以下のとおりです。

操作をプロテクトできる機能		プロテクトの種類		
		禁止	プロテクトする	プロテクトしない
ファクス送信 ^{*1} ・ Scan to メール・ インターネット ファクス送信 ^{*1*2}	短縮送信（宛先表送信）	操作不可 「使用禁止設定 されています。 管理者にお問 い合わせくださ い。」 と表示する	操作時に、 プロテクト コードを入力	制限なし
	直接ダイヤル ^{*1} （テンキーを使った送信）			
	宛先グループ送信			
	手動送信 ^{*1} （ハンドセットや ［オンフック］を使った送信）			
	リダイヤル ^{*1}			
	閉域送信 ^{*1*3}			
	ID チェック送信 ^{*1*3}			
	メールアドレスを直接入力し て送信			
	メール履歴を使った送信			
	ジョブメモリー実行			
	Fコード送信 ^{*1}			
	自動配信 ^{*1*3}			
	メモリー送信 ^{*1*3}			
	分割送信 ^{*3}			
機器設定	宛先登録	操作時に、 管理者パスワ ードを入力して使 用可能		
	宛先グループ登録			
	ポーリング原稿 ^{*1}			
	Fコード原稿 ^{*1}			
	ジョブメモリー登録			
	Fコードボックスの登録 ^{*1}			
リスト	宛先リスト			
	宛先グループリスト			
	通信管理レポート			
	ジョブメモリーリスト			
	自動配信リスト ^{*1}			
	Fコードボックスリスト ^{*1}			
通信履歴	通信履歴表示			

* 1 bizhub 2030f のみ表示されます

* 2 オプションの Information server が必要です。

* 3 禁止に設定されている場合でも、〈メニュー〉から設定を変更するときは、管理者パスワードを入力すると設定変更できます。

補足

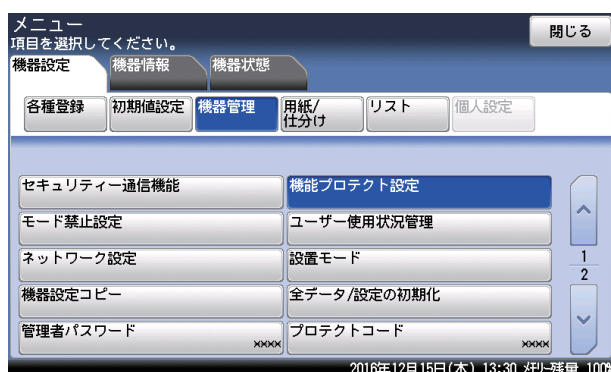
宛先表送信、短縮ダイヤル、テンキー、リダイヤルをプロテクトしていても、手動送信の場合はプロテクトできません。手動送信の場合で、宛先表送信、短縮ダイヤル、テンキー、リダイヤルをプロテクトするには、「手動送信」をプロテクト設定してください。

機能プロテクトを設定する

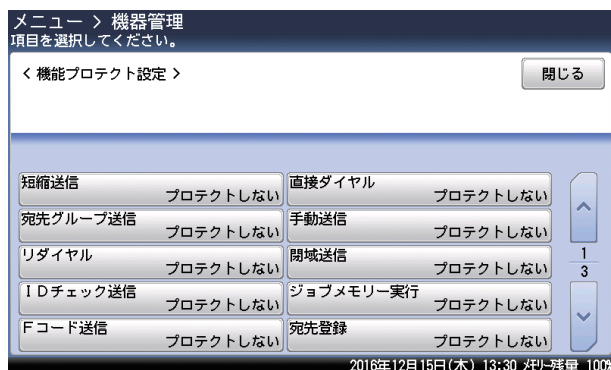
補足

機能プロテクトを設定する場合は、あらかじめ管理者パスワード（→ 2-4 ページ）とプロテクトコード（→ 2-6 ページ）を設定しておく必要があります。

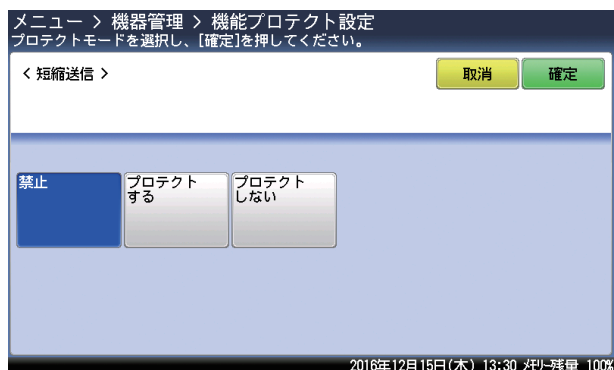
- 1 <メニュー> を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 4 [機能プロテクト設定] を押します。



- 5 プロテクトコードを入力し、[確定] を押します。
- 6 設定・変更したい機能を選択します。



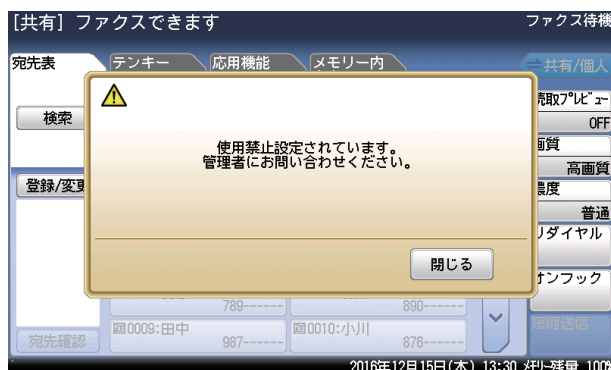
7 プロテクトの種類を選択し、[確定] を押します。



機能プロテクトを使う

ファクス機能・インターネットファクス機能を「禁止」に設定した場合

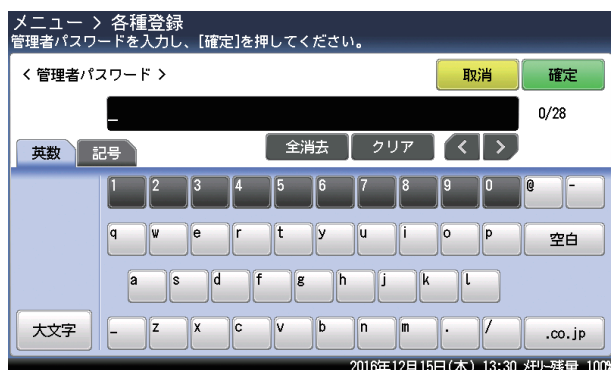
機能プロテクト設定で「禁止」に設定した機能は使用できません。使用しようとする画面に「使用禁止設定されています。管理者にお問い合わせください。」というメッセージが表示されます。



インターネットファクス機能を利用するには、オプションの Information server が必要です。

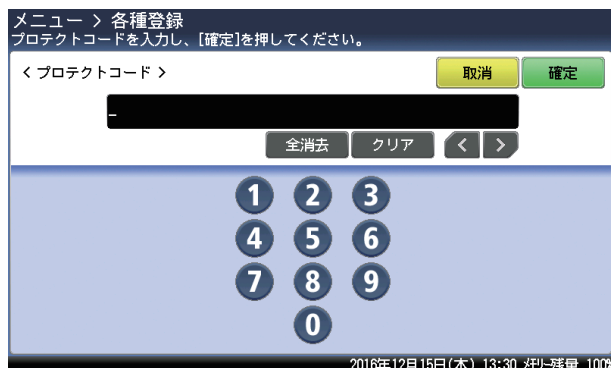
機器設定やリストの出力、通信履歴の表示を「禁止」に設定した場合

機能プロテクト設定で機器設定やリストの出力、通信履歴の表示を「禁止」に設定した場合は、その機能を使用するときに管理者パスワードの入力が要求されます。



「プロテクトする」に設定した場合

機能プロテクト設定で「プロテクトする」を設定した場合は、その機能を利用するときにプロテクトコードの入力が必要です。



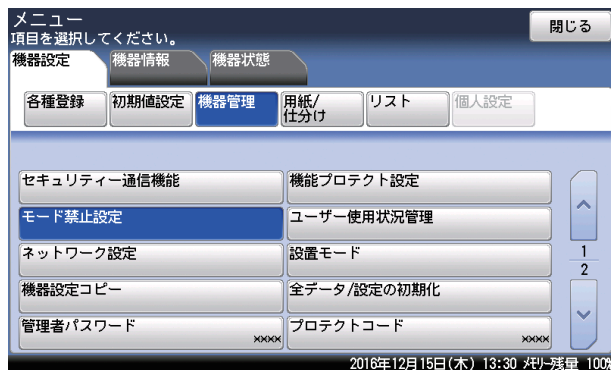
モード禁止設定をする

コピー機能、スキャナー機能、ファクス機能、プリント機能を使用できないように設定できます。

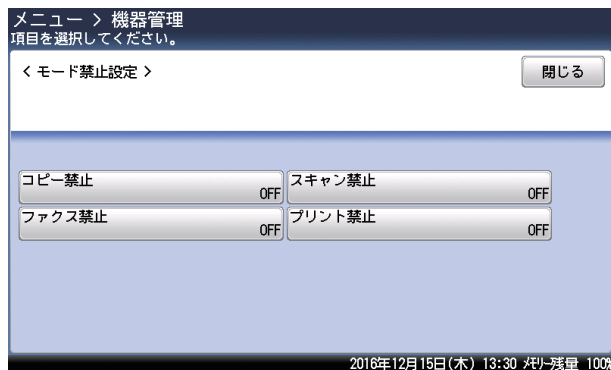
補足

- ・「プリント禁止」を ON に設定すると、リスト出力、オンライン、セキュリティープリントの操作を禁止します。
- ・ファクス機能は、bizhub 2030f のみでご利用できます。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定]を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 4 「モード禁止設定」を押します。



- 5 設定したい機能を選択します。



[ファクス禁止] は、bizhub 2030f のみで表示されます。

- 6 「ON」を選択し、[確定]を押します。

ユーザー使用状況を管理する

この機能を使用すると、ユーザーごとのコピー、ファクス、スキャン、プリントそれぞれの総ページ数やファクス通信時間などを確認できます。また、1 ページあたりの単価を設定して、各ユーザーが使用したコピーやファクスなどの合計料金を集計できます。ユーザーが機器にログインして使用した場合はユーザーごとに、ログインせずに使用した場合はゲストユーザーとして、それぞれ集計されます。

操作の流れ

- 1 通貨単位を設定します。(下記参照)
- 2 料金設定でコピー、ファクス、スキャン、プリントの設定を ON にし、1 枚あたりの単価を設定します。(→ 2-15 ページ)
- 3 コピー、スキャン、ファクス、プリントを使用します。ユーザーごとに管理したいときは、管理したいユーザーでログインして使用します。
- 4 ユーザー使用状況管理リストをプリントして使用状況を確認します。(→ 2-16 ページ)

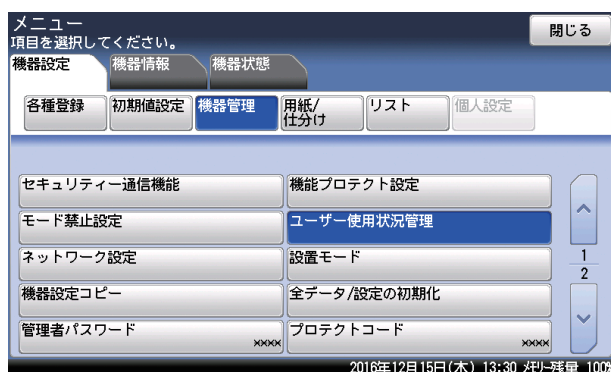
補足

- ユーザーごとにコピー、スキャン、ファクスを集計するためには、操作パネルでログインして、機器を使用してください。(→ 1-30 ページ)
- ユーザーごとにプリントを集計するためには、コンピューター上でプリンターの印刷設定画面を表示して、「拡張機能」タブに認証ユーザーを設定してください。設定のしかたは、『プリンター編』第 1 章の「印刷設定を変更する」の「[拡張機能] タブ」を参照してください。
- ファクス機能は、bizhub 2030f のみでご利用できます。

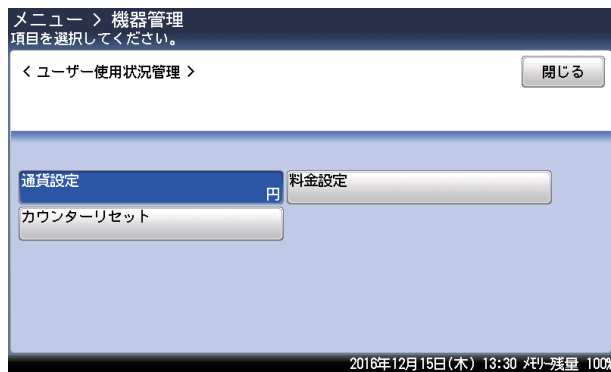
通貨単位を設定する

料金設定の通貨単位を設定します。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 4 [ユーザー使用状況管理] を押します。



5 [通貨設定] を押します。

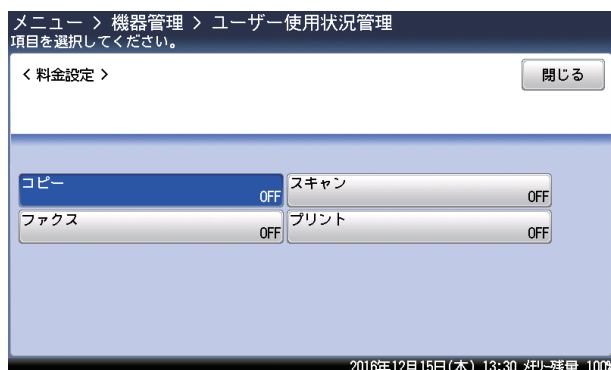


6 通貨単位を選択し、[確定] を押します。

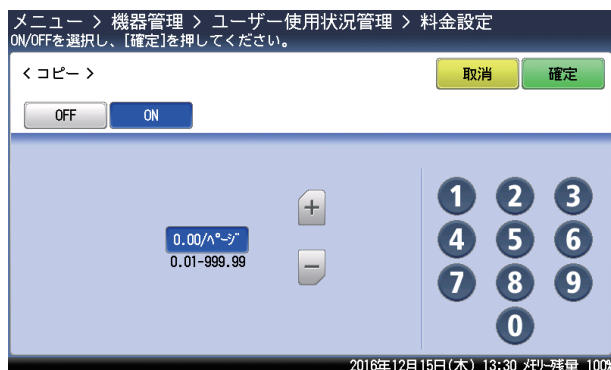
料金を設定する

ON にしたあと、1 枚あたりの単価を設定します。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま手順 4 に進みます。
- 4 [ユーザー使用状況管理] を押します。
- 5 [料金設定] を押します。
- 6 設定したい機能を選択します。



- 7 [ON] を押します。
「OFF」を選択すると、料金設定が OFF になります。
- 8 1 枚あたりの単価を入力し、[確定] を押します。



- ・続けてほかの料金設定をする場合は、手順 6 から操作を繰り返します。
- ・[+] と [-] や、テンキーを使っても設定できます

ユーザー使用状況管理リストをプリントする

各モードで使用したページ数や通信時間の合計をユーザーごとにプリントできます。

ユーザー使用状況管理リストには、以下の情報が記載されています。

- コピー、ファクス、スキャン、プリントの 1 ページあたりの単価
- 全ユーザーの合計料金と総通信時間
- ゲストユーザー、一般ユーザーの総通信時間
- ゲストユーザー、一般ユーザーのファクス、スキャン、またはプリントの総ページ数と合計料金

補足

- インターネットファクスのページ数や通信時間はファクスの項目に加算されます。
- 料金設定が ON に設定されている項目のみ、リストにプリントされます。
- 999999 ページ、通信時間 999:59:59（999 時間 59 分 59 秒）までカウントできます。
- 特定のユーザーの機器使用状況のみをプリントしたい場合は、『ネットワーク機能・Information server 編』第 5 章の「ユーザーの使用状況を管理する」を参照してください。

1 〈メニュー〉を押します。

2 [機器設定] タブ、[リスト] の順に押します。

3 [ユーザー使用状況管理リスト] を押します。

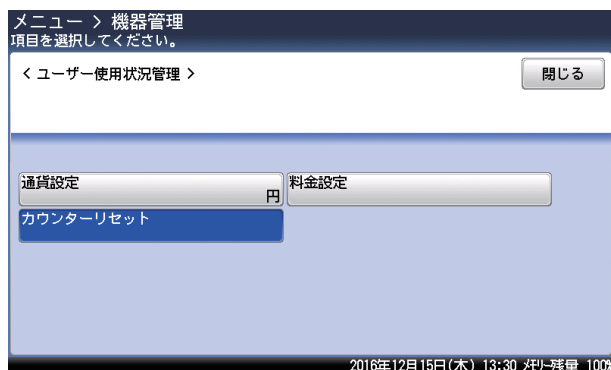
4 [はい] を押します。

- ・「両面印字」を [ON] にすると、用紙の両面にプリントします。
- ・「ページ集約」を [ON] にすると、リスト 2 枚分を 1 枚の用紙に並べてプリントします。
- ・パンチの目印になるセンターマークをプリントします。センターマークを付けたい位置を選択します。

集計データを消去する

集計したデータをすべて消去します。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定]を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 4 [ユーザー使用状況管理] を押します。
- 5 [カウンターリセット] を押します。



- 6 [はい] を押します。

ネットワーク設定をする

ネットワークに関連するさまざまな機能を使用するための設定をします。

機能	機能説明	設定値	参照ページ
Ping	特定の IP アドレスを入力して Ping を実行し、接続状況を確認できます。		—
LDAP 設定 ^{*1}	LDAP サーバーを利用して、メールアドレスや名前など宛先情報を検索できます。		2-21
TCP / IP 設定	機器をネットワークで使用するための設定をします。		2-19
アーカイブ設定 ^{*1}	ファクスや電子メールで送受信した内容を、指定した宛先にファクス送信したり、指定した共有フォルダーに格納したりできます。	登録されていません	2-26
認証方法	ログインするユーザーの認証方法を設定します。	スタンドアロン シングルサインオン	2-30
アクセス制限設定のクリア	ネットワーク設定画面や Information server にアクセスできなくなった場合、アクセス制限を初期化できます。		—
スキャン to プリンターのクリア	スキャン to プリントモニターで登録したプリンターを、機器から削除できます。		—
サービス設定の初期化	ネットワーク設定画面や Information server にアクセスできなくなった場合、マシンポリシー設定にあるサービス設定を初期化できます。		—
ネットワーク接続速度切り替え	接続している LAN の通信速度を設定できます。	自動 100Mbps - 全二重 100Mbps - 半二重 10Mbps - 全二重 10Mbps - 半二重	—

* 1 bizhub 2030f にオプションの Information server が装着された場合のみ表示されます。

補足

— の付いている値が、工場出荷時の設定です。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定]を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 4 [ネットワーク設定] を押します。
- 5 それぞれ設定を行います。

TCP / IP 設定をする

補足

ネットワーク設定を変更する場合は、ネットワーク管理者に相談してください。
IP アドレスの設定を間違えると、正しくネットワークに接続できません。

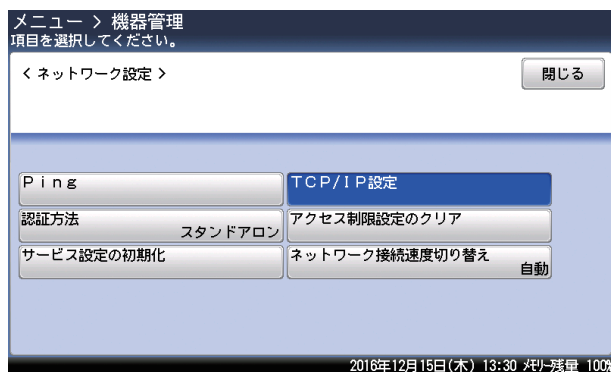
項目	説明
ホスト名	機器のホスト名を入力します。15 文字まで入力できます。 名前の先頭に「*」は、入力できません。 初期値は MAC アドレスです。
ワークグループ名	機器が接続されているネットワークのワークグループ名を入力します。 15 文字まで入力できます。名前の先頭に「*」は、入力できません。 初期値は「WORKGROUP」です。 補足 ・ドメイン名はワークグループ名として使用できません。 ・ネットワーク上にワークグループがない場合は、新しいワークグループを作成してください。 ・新しいワークグループを作成する場合は、ネットワーク管理者にお問い合わせください。
DNS サーバーアドレス	DNS サーバーを使用しているときは、優先 DNS サーバーアドレス（優先プライマリー）、代替 DNS サーバーアドレス（セカンダリー）を入力します。
DNS サフィクス	ホスト名だけで名前解決をする場合は、DNS サフィクスを登録します。 50 文字まで入力できます。
IP アドレス自動取得	ネットワーク上に DHCP サーバーがある場合に、DHCP サーバーから自動的に IP アドレスを取得するかどうかを設定します。IP アドレスを自動で取得する場合は「ON」、自動で取得しない場合は「OFF」を設定します。 初期値は「ON」です。
IP アドレス	機器のネットワーク上の IP アドレスを設定します。 初期値は「192.168.1.10」です。 0.0.0.0、255.255.255、127. から始まるアドレスの入力はできません。 補足 「IP アドレス自動取得」が ON のときは、設定できません。
サブネットマスク	サブネットマスクを設定します。 0.0.0.0、255.255.255、127. から始まるアドレスの入力はできません。 初期値は「255.255.255.0」です。 補足 「IP アドレス自動取得」が ON のときは、設定できません。
ゲートウェイアドレス	ゲートウェイを使用しているときは、ゲートウェイアドレスを設定します。 0.0.0.0、255.255.255、127. から始まるアドレスの入力はできません。
WINS サーバーアドレス	WINS サーバーを使用しているときは、WINS サーバーアドレスを入力します。 0.0.0.0、255.255.255、127. から始まるアドレスの入力はできません。

項目	説明
IPv6 設定	以下の設定ができます。 • IPv6 アドレスを自動取得 • グローバル IP アドレス • サブネットプレフィクス • ゲートウェイアドレス 以下の確認ができます。 • リンクローカルアドレス IPv6 設定の詳細は、『ネットワーク機能・Information server 編』第4章の「ネットワーク環境を設定する (TCP/IP 設定)」を参照してください。

- 1 <メニュー> を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。

- 4 [ネットワーク設定] を押します。

- 5 [TCP / IP 設定] を押します。



- 6 それぞれ設定を行います。

LDAP サーバーを登録する

LDAP サーバーを利用して、メールアドレスや名前など宛先情報を検索できます。
以下の情報が登録できます。

補足

bizhub 2030f にオプションの Information server が装着された場合のみご利用できます。

項目	説明
名前	画面に表示されるボタン名称です。半角 23 文字まで入力できます。 登録しなかった場合は、LDAP サーバーアドレスの先頭から 23 文字までが表示されます。
LDAP サーバーアドレス	登録する LDAP サーバーの名前、または IP アドレスを入力します。99 文字まで入力できます。
ポート番号	LDAP サーバーのポート番号を入力します。 設定可能範囲は 0 ～ 65535 で、初期値は 389 です。
認証方式	LDAP サーバーのアクセスにログインが必要かどうか設定します。
ls ユーザーログイン	「認証方式」で「Simple」か「DIGESTS-MD5」を選択した場合、ログインに Information server のユーザー情報を使用するかどうか設定にします。 この設定を有効にするときは、Information server のユーザー登録で「LDAP サーバー認証」のアカウントとパスワードを登録しておく、検索のたびにアカウントとパスワードを入力する必要があります。
アカウント ID	「ls ユーザーログイン」で「OFF」を選択した場合に、ログインに使用するアカウント ID を登録します。 アカウントを登録しないと、検索のときにアカウントの入力が必要になります。49 文字まで入力できます。
パスワード	「ls ユーザーログイン」で「OFF」を選択した場合に、ログインに使用するパスワードを登録します。 パスワードを登録しないと、検索のときにパスワードの入力が必要になります。29 文字まで入力できます。
検索開始位置	LDAP サーバーの検索開始位置を入力します。99 文字まで入力できます。
検索結果最大件数	検索結果を何件まで表示するか設定します。検索結果が設定した件数より多かった場合は、エラーを表示します。設定可能範囲は 1 ～ 100 件で、初期値は 50 件です。
最大検索時間	検索結果を表示するまでにかかる時間の上限を設定します。検索結果が設定した時間より長かった場合は、エラーを表示します。設定可能範囲は 0 ～ 9999 秒で、あらかじめ設定されている値は、0（制限なし）です。
オプション設定	パラメーターに検索条件を追加できます。
追加する属性	追加する検索条件の属性を入力します。49 文字まで入力できます。
追加する値	追加する検索条件の値を入力します。99 文字まで入力できます。
検索方法	検索方法を選択します。

項目	説明
検索属性設定	
名前 1	名前の属性を設定します。49 文字まで入力できます。 初期値は「cn」です。
名前 2	名前の属性を設定します。49 文字まで入力できます。 初期値は「commonname」です。
メールアドレス 1	メールアドレスの属性を設定します。 49 文字まで入力できます。初期値は「mail」です。
メールアドレス 2	メールアドレスの属性を設定します。49 文字まで入力できます。
ファクス番号 1	ファクス番号の属性を設定します。49 文字まで入力できます。 初期値は「facsimileTelephoneNumber」です。
ファクス番号 2	ファクス番号の属性を設定します。49 文字まで入力できます。
電話番号 1	電話番号の属性を設定します。49 文字まで入力できます。 初期値は「telephoneNumber」です。
電話番号 2	電話番号の属性を設定します。49 文字まで入力できます。
会社名 1	会社名の属性を設定します。49 文字まで入力できます。 初期値は「company」です。
会社名 2	会社名の属性を設定します。49 文字まで入力できます。 初期値は「o」です。

□ LDAP サーバーを登録する・変更する

LDAP サーバーは 5 つまで登録できます。

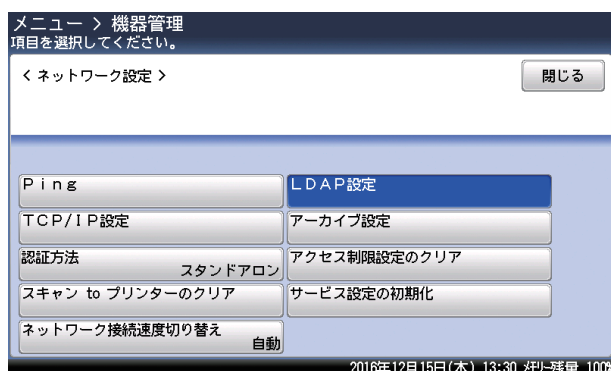
ここでは LDAP サーバーの登録方法を説明します。変更の場合は、手順 6 で変更したい LDAP サーバーを選択し、[変更] を押します。手順 6 の画面が表示されるので、変更したい項目を選択して変更してください。

補足

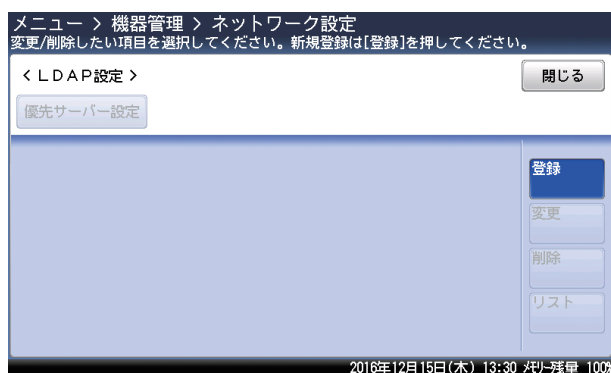
1 つ目の LDAP サーバーを登録した場合は、「優先サーバーに設定しました。」というメッセージが表示されます。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 4 [ネットワーク設定] を押します。

5 [LDAP 設定] を押します。



6 [登録] を押します。



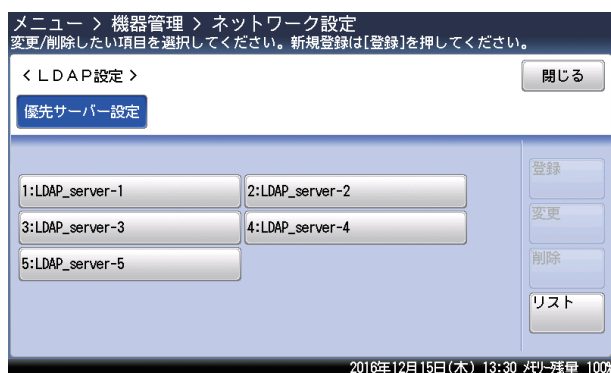
7 それぞれの項目を登録します。

□ 優先 LDAP サーバーを設定する

登録されている LDAP サーバーの中から、LDAP 検索するとき使用する LDAP サーバーを設定します。

あらかじめ 1 つ以上の LDAP サーバーを登録しておいてください。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定]を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 4 [ネットワーク設定] を押します。
- 5 [LDAP 設定] を押します。
- 6 [優先サーバー設定] を押します。



- 7 優先サーバーに設定したい LDAP サーバーを選択し、[確定]を押します。

LDAP サーバーを削除する

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 4 [ネットワーク設定] を押します。
- 5 [LDAP 設定] を押します。
- 6 削除したい LDAP サーバーを選択し、[削除] を押します。
- 7 [はい] を押します。

LDAP 設定リストをプリントする

補足

LDAP 設定リストは 〈メニュー〉 [機器設定] タブ → [リスト] → [LDAP 設定リスト] からプリントできます。手順 7 から続けてください。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 4 [ネットワーク設定] を押します。
- 5 [LDAP 設定] を押します。
- 6 [リスト] を押します。
- 7 [はい] を押します。
 - ・「両面印字」を [ON] にすると、用紙の両面にプリントします。
 - ・「ページ集約」を [ON] にすると、リスト 2 枚分を 1 枚の用紙に並べてプリントします。
 - ・パンチの目印になるセンターマークをプリントします。センターマークを付けたい位置を選択します。

アーカイブ設定をする

ファクス送受信した文書の内容を、指定した宛先にファクス送信できます。これを「アーカイブ」といいます。それぞれ設定できるアーカイブ先は1つです。

■アーカイブできる通信の種類

- ・送信済みファクス
- ・送信済みインターネットファクス
- ・送信済み電子メール
- ・受信済みファクス
- ・受信済みインターネットファクス

■アーカイブできない通信の種類

- ・ポーリング送信
- ・ポーリング受信
- ・Fコードポーリング送信
- ・Fコードポーリング受信
- ・Fコード親展受信
- ・Fコード掲示板受信

■格納先（いずれか1つ）

- ・ファクス宛先
- ・共有フォルダー

補足

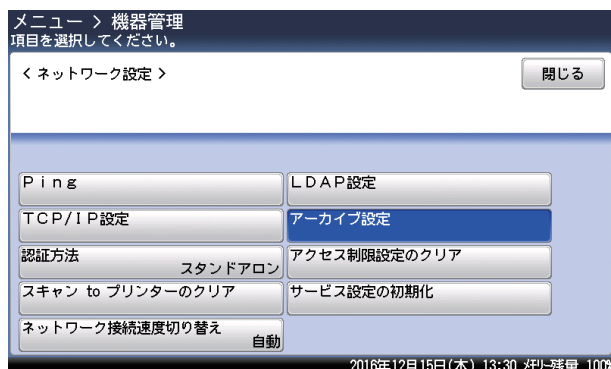
- ・bizhub 2030f にオプションの Information server が装着された場合のみご利用できます。
- ・アーカイブ設定がONの場合、リアルタイム送信および手動送信（ハンドセットや［オンフック］を使った送信）はできません。
- ・送信済み電子メールは、ファクス宛先にはアーカイブできません。
- ・送受信が正常に行われた場合のみ、設定したデータ保存が行われます。エラーなどで正常に送受信されなかった場合は、設定したデータ保存は行われません。
- ・アーカイブに失敗するとチェックメッセージがプリントされます。ユーザーが送信したファクスやインターネットファクスの送受信の失敗ではありません。

□ アーカイブ先を設定する

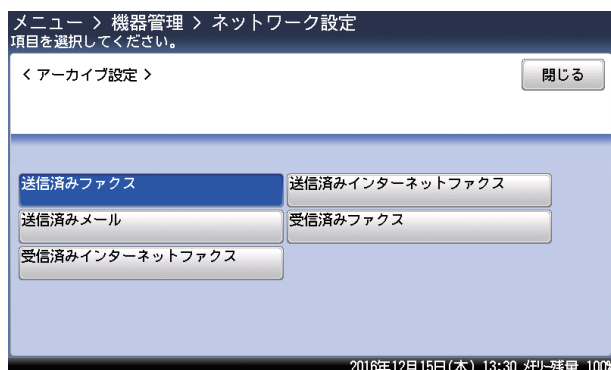
ここでは、送信済みファクスのアーカイブ先設定を例に説明します。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定]を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 4 [ネットワーク設定] を押します。

5 [アーカイブ設定] を押します。

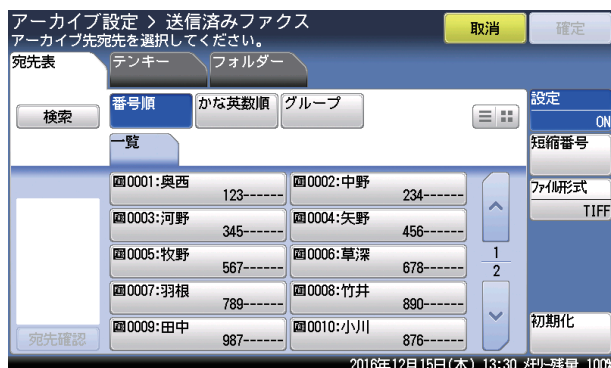


6 設定したい項目を選択します。



ここでは、[送信済みファクス] を押します。

7 [設定] を押します。

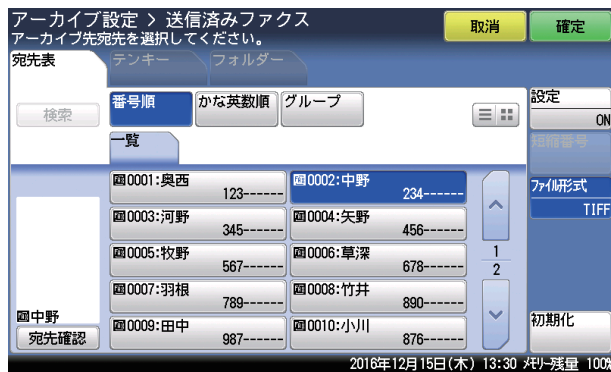


[設定] を押すごとに ON と OFF が切り替わります。

8 アーカイブ先のファクス番号またはフォルダーを設定します。

- ・ファクス番号を宛先に設定する方法は、『スキャナー・ファクス編』第6章の「宛先を指定する」を参照してください。
- ・フォルダーを設定する場合は、フォルダーショートカットを選択する方法とフォルダーのリンク先を入力する方法があります。詳細については『スキャナー・ファクス編』第1章の「スキャンしたファイルを送信する」の「共有フォルダーに保存する（スキャン to フォルダー）」を参照してください。

9 [ファイル形式] を押します。



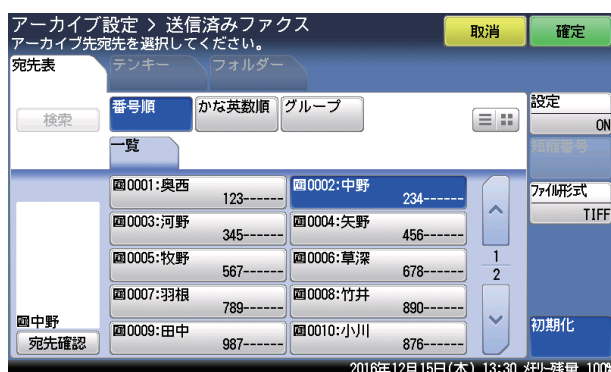
- ・[ファイル形式] を押すたびに、ファイル形式が TIFF と PDF で切り替わります。
- ・アーカイブ先にファクス番号を選択したときは、この手順は不要です。

10 [確定] を押します。

- ・手順はこれで終了です。
- ・続けて操作する場合は、手順 6 から操作を繰り返します。

□ アーカイブ設定を初期化する

- 1 <メニュー> を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 4 [ネットワーク設定] を押します。
- 5 [アーカイブ設定] を押します。
- 6 アーカイブ設定を初期化したい項目を選択します。
- 7 [初期化] を押します。



- 8 初期化する場合は [はい] を押します。

ユーザー認証方法を設定する

この機能は使用するユーザーの認証方法を設定して、機器の使用を制限できます。

認証方法は 2 種類あります。

認証方法	説 明
スタンドアロン	機器の中のユーザー情報を使って、ユーザー認証を行います。 あらかじめ、ユーザー情報を登録しておく必要があります。
シングルサインオン	Active Directory の認証を行ったあと、機器の中のユーザー情報を使ってユーザー認証を行います。 該当するユーザー情報が登録されていない場合は、自動的にユーザー情報を新規登録します。また、該当するユーザー情報がすでに登録されている場合は、Active Directory に登録されている情報で上書きします。

補 足

- 登録ユーザー数が上限 (200 件) を超えた場合は、「シングルサインオン」設定時でもユーザー登録はされず、ゲストユーザーとしてログインします。
- ユーザー認証を「シングルサインオン」に設定するときは、あらかじめドメイン名の登録が必要です。ドメイン名は、ネットワーク設定または Information server の「マシンポリシー」画面から登録してください。詳細は、『ネットワーク機能・Information server 編』第 5 章の「セキュリティーを設定する」の「マシンポリシーを設定する」を参照してください。

1 <メニュー> を押します。

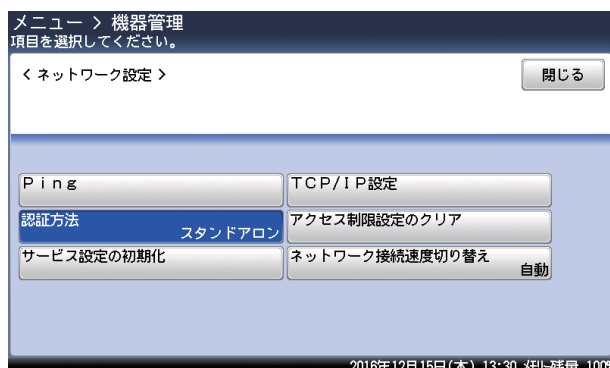
2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。

3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。

管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。

4 [ネットワーク設定] を押します。

5 [認証方法] を押します。



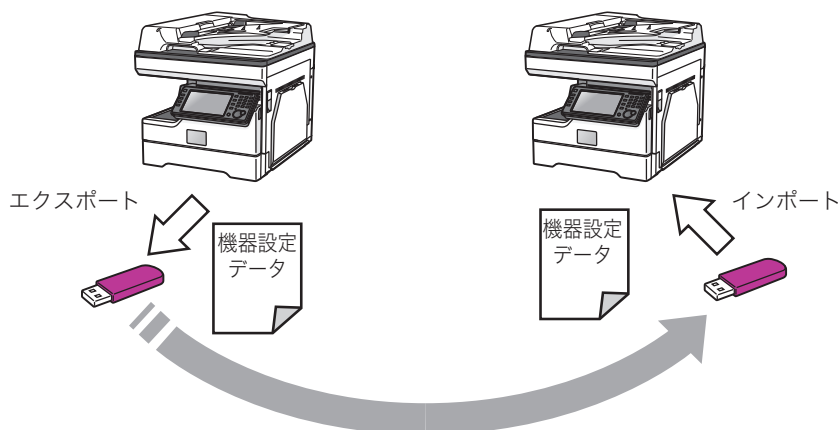
6 認証方法を選択し、[確定] を押します。

機器設定をコピーする

コピー設定、ファクス設定や宛先表の登録内容などの機器設定データを同機種のほかの機器へコピーできます。

複数台の機器で機器設定を同じにしたい場合などに便利です。

USB メモリーに機器設定データをエクスポートし、ほかの機器へインポートします。



USB メモリーにエクスポートする

補足

- FAT12、FAT16、または FAT32 でフォーマットした USB メモリーが使用できます。
- セキュリティ機能付の USB メモリーや、USB 接続のメモリーカードリーダー、延長ケーブルや USB ハブ経由での USB メモリー、USB の規格に準拠していない USB メモリーはサポートしていません。
- 途中で USB メモリーの容量が不足した場合は、書き込み中のデータがすべて削除されます。あらかじめ USB メモリーの容量が十分あることを確認してください。

1 〈メニュー〉を押します。

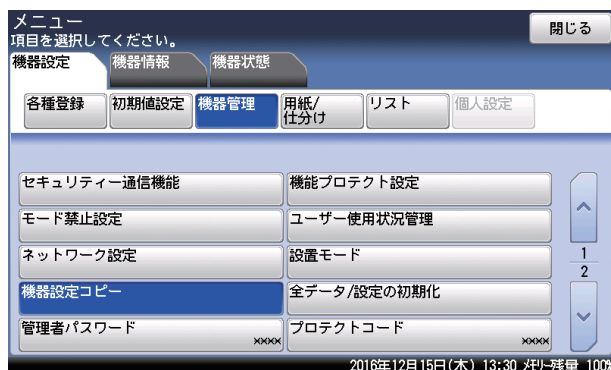
誤って USB メモリーを接続した場合は、「USB メモリーが接続されました」と表示されます。
[閉じる] を押して画面を閉じます。

2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。

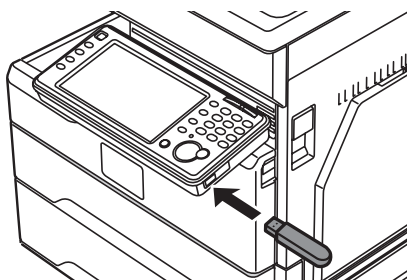
3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定]を押します。

管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。

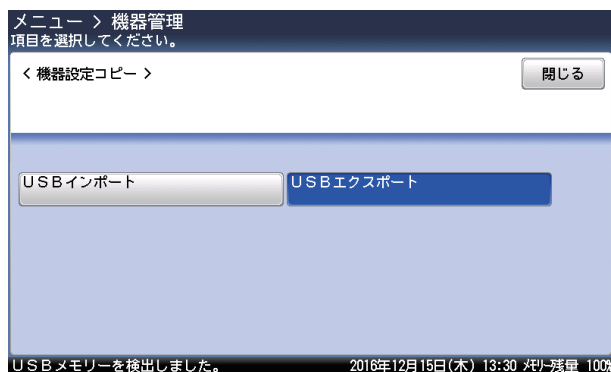
4 「機器設定コピー」を押します。



5 エクスポートする機器の USB メモリー接続端子に、USB メモリーを接続します。



6 「USB エクスポート」を押します。



7 機器設定データを保存するフォルダーを指定し、[確定] を押します。



[ルート] をクリックすると、一番先頭の階層 (ルート) に戻ります。

8 ファイル名を入力し、[確定] を押します。

- ・初期ファイル名は、「製品名称_機台番号_日時 (YYYYMMDDhhmmss) .mdx」です。
- ・ファイル名の最後には「.mdx」を必ず付けてください。
- ・半角 80 文字まで入力できます。

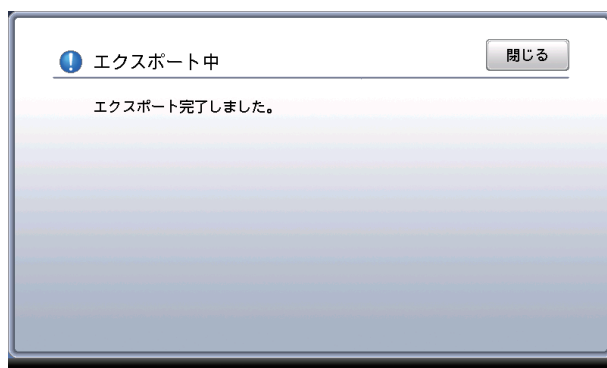
9 パスワードを設定する場合は、パスワードを入力し、[確定] を押します。



- ・パスワードを設定しないときは、何も入力せずに [確定] を押します。
- ・半角 28 文字まで入力できます。

10 [はい] を押します。

11 エクスポートが完了したら、[閉じる] を押して、USB メモリーを機器から抜き取ります。

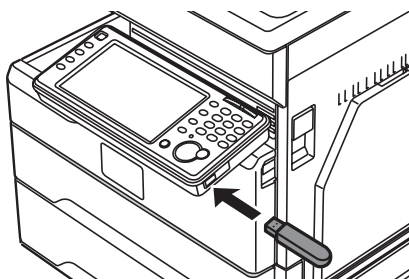


USB メモリーから機器にインポートする

補足

機器に原稿などが蓄積されている場合や通信予約などでメモリーを使用しているときは、機器設定がインポートできません。蓄積原稿が無いときに操作を行ってください。蓄積原稿は、蓄積原稿リストをプリントして確認できます。(→ 1-27 ページ)

- 1 <メニュー> を押します。
誤って USB メモリーを接続した場合は、「USB メモリーが接続されました」と表示されます。
[閉じる] を押して画面を閉じます。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 4 [機器設定コピー] を押します。
- 5 インポート先の機器の USB メモリー接続端子に、機器設定データの入った USB メモリーを接続します。



- 6 [USB インポート] を押します。
- 7 インポートする機器設定データを選択し、[確定] を押します。

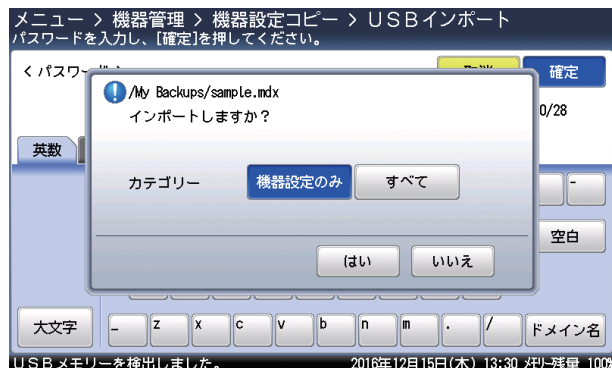


- ・[ルート] をクリックすると、一番先頭の階層（ルート）に戻ります。
- ・を押すと、ファイル情報（文書名、場所、ファイルサイズ、最終更新日）を表示します。

8 パスワードを入力し、[確定] を押します。

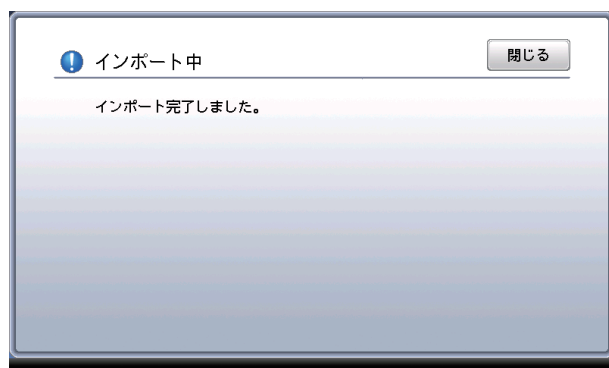
パスワードが設定されていないときは、何も入力せずに [確定] を押します。

9 機器設定のみインポートする場合は「機器設定のみ」を、すべてのデータをインポートする場合は「すべて」を選択し、「はい」を押します。



- ・[機器設定のみ] を選択した場合はユーザー情報が消去され、[すべて] を選択した場合はインポートしたユーザー情報で上書きされます。
- ・[機器設定のみ] を選択した場合と [すべて] を選択した場合のインポートされる設定データの違いについては、補足を参照してください。(→ 2-36 ページ)

10 インポートが完了したら、[閉じる] を押して、USB メモリーを機器から抜き取ります。



機器情報がインポートされると、機器は自動的に再起動を行います。

補足

「機器設定のみ」と「すべて」のインポート範囲は以下のとおりです。

項目	機器設定のみ	すべて
機器の設定	機器に保存されている全データ	機器に保存されている全データ
ユーザー情報	- 宛先表（共有） - ショートカット（共有） - テンプレート設定^{*1,2}	- 宛先表（共有） - ショートカット（共有） - テンプレート設定^{*1,2} - ユーザー登録 - 宛先表（個人） - ショートカット（個人）
機器設定	- LDAP 設定^{*1} - SNMP 設定 - 本体機器設定 - 本体初期値設定 - TCP/IP 設定^{*3} - メール設定^{*4} - インターネット時刻設定^{*5}	- LDAP 設定^{*1} - SNMP 設定 - 本体機器設定 - 本体初期値設定 - TCP/IP 設定^{*3} - メール設定^{*4} - インターネット時刻設定^{*5}
機器管理設定	- アクセス制限 - 文書ボックス設定^{*1} - ユーザー使用状況管理^{*6} - セキュリティ設定^{*7}	- アクセス制限 - 文書ボックス設定^{*1} - ユーザー使用状況管理^{*6} - セキュリティ設定^{*7} - 自動配信 - ユーザーポリシー
機器情報	機器状態の機器名称、設置場所	機器状態の機器名称、設置場所

- * 1 オプションの Information server が必要です。
- * 2 ただし、カバーページはインポートされません。
- * 3 ホスト名、IP アドレスは対象外。
- * 4 機器情報の名前、機器メールアドレス、返信先メールアドレス、SMTP 認証ユーザー名、SMTP 認証パスワード、POP3 ユーザー名、認証方式は対象外。
- * 5 同期時刻、前回同期時刻は対象外。
- * 6 各機能でカウントされた時間やページ数などのデータは対象外。
- * 7 SSL 証明書設定は対象外。

自動ログアウト時間を設定する

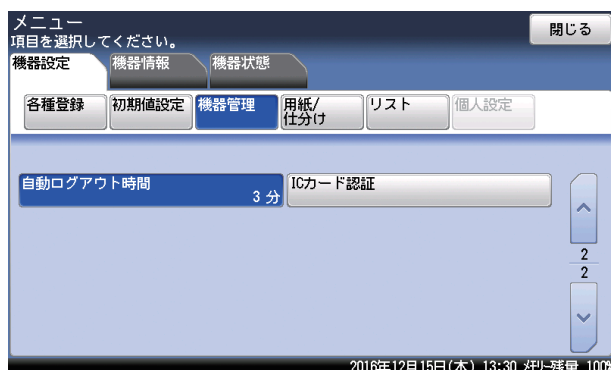
ログイン後、何も操作しなかった場合に自動的にログアウトするまでの時間を設定します。ユーザー認証を受けた（ログインした）状態で機器から離れてしまったときに、不正に使用されるのを防ぎます。

設定可能範囲は 1 ～ 10 分で、初期値は 3 分です。

補足

手動でログアウトする方法については、「[ログアウトする](#)」(1-31 ページ) を参照してください。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを設定している場合は、管理者パスワードを入力し、[確定]を押します。
管理者パスワードを設定していない場合は、そのまま次の手順に進みます。
- 4 [自動ログアウト時間] を押します。



- 5 自動ログアウト時間を入力し、[確定] を押します。
[+] と [-] や、テンキーを使っても設定できます。

IC カード認証を設定する

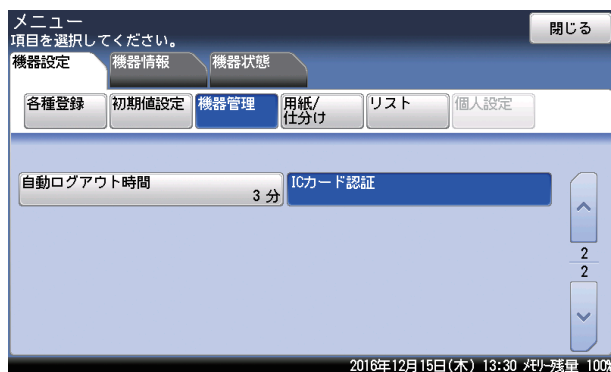
オプションの IC カード認証装置が装着されている場合は、カード認証の設定をしてください。

補足

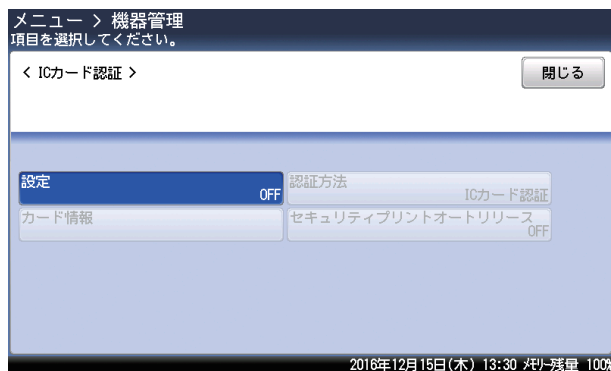
- IC カード認証装置はオプションです。
- IC カードは、FeliCa と MIFARE が使用できます。
- あらかじめ管理者パスワードの設定が必要です。(→ 2-4 ページ)

IC カード認証を有効にする

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
- 4 [IC カード認証] を押します。



- 5 [設定] を選択します。



- 6 [ON] を選択し、[確定] を押します。
[OFF] を選択すると、IC カード認証機能が無効になります。

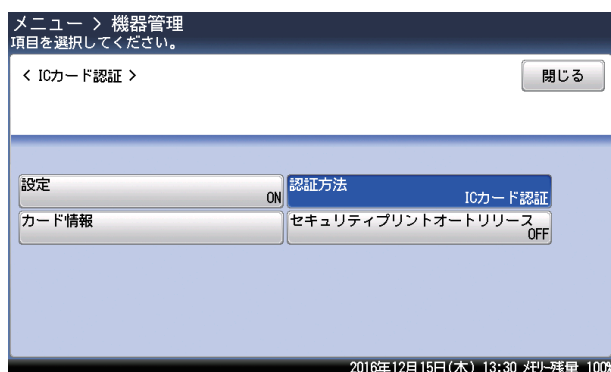
認証方法を設定する

IC カードをかざしたときの認証方法を次の 2 つから選択できます。

IC カード認証 : IC カードを読み取り部にかざすと、ユーザーが認証され、ログインされます。

IC カード認証 + パスワード : IC カードを読み取り部にかざすとユーザー名が認識され、パスワードが設定されている場合は、パスワードの入力画面が表示されます。パスワードを入力するとログインされます。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
- 4 [IC カード認証] を押します。
- 5 [認証方法] を選択します。



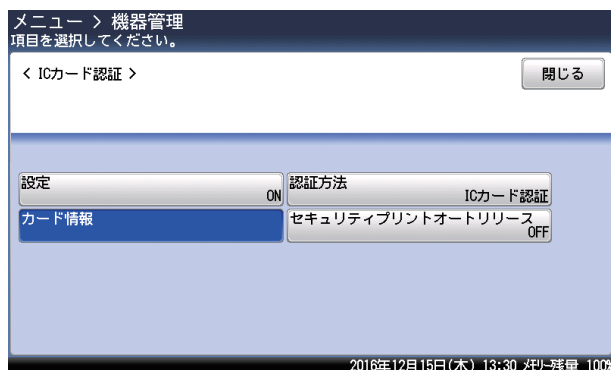
- 6 認証方法を選択し、[確定] を押します。

IC カード情報を登録する

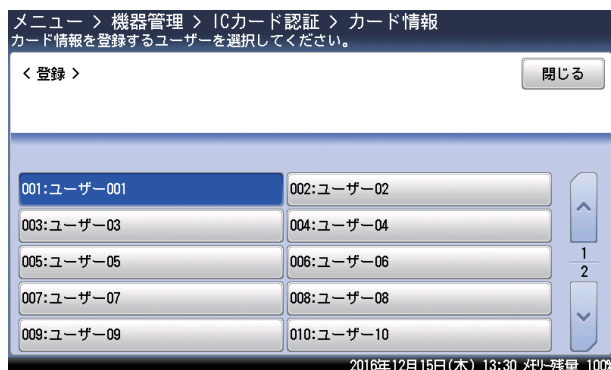
ユーザーごとに IC カードの情報を登録してください。一人のユーザーにつき、登録できる IC カードは 1 枚だけです。

□ IC カード情報を新規登録する

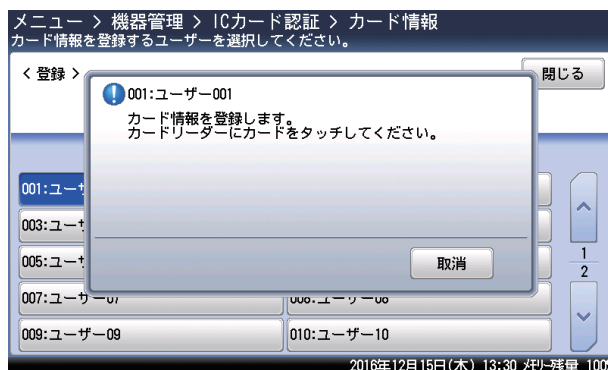
- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
- 4 [IC カード認証] を押します。
- 5 [カード情報] を選択します。



- 6 [登録] を選択します。
- 7 登録するユーザーを選択します。



8 登録する IC カードを読み取り部にかざします。

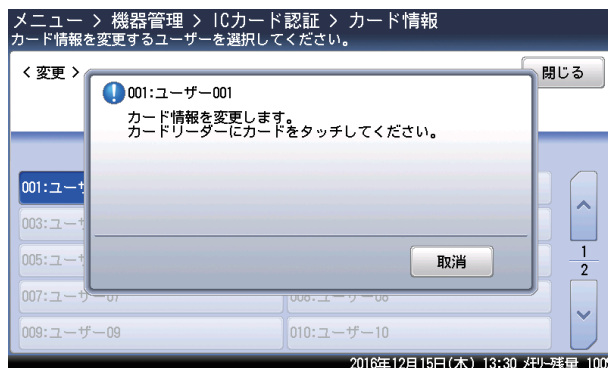


- ・読み取りが完了すると、「登録完了しました」と表示してから画面が閉じられます。
- ・手順 7 から繰り返して、すべてのユーザーの IC カードを登録します。

□ IC カード情報を変更する

登録した IC カード情報を変更できます。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
- 4 [IC カード認証] を押します。
- 5 [カード情報] を選択します。
- 6 [変更] を選択します。
- 7 IC カード情報を変更するユーザーを選択します。
- 8 新しく登録する IC カードを読み取り部にかざします。



読み取りが完了すると、「変更完了しました。」と表示してから画面が閉じられます。

□ IC カード情報を削除する

登録した IC カード情報を削除できます。ユーザーごとに削除を行う「削除」とすべてのユーザーの情報をまとめて削除する「全削除」があります。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
- 4 [IC カード認証] を押します。
- 5 [カード情報] を選択します。
- 6 [削除] を選択します。
- 7 ユーザーごとに削除を行う場合は [削除]、すべてのユーザーの情報をまとめて削除する場合は [全削除] を選択します。
[全削除] を選択した場合は、手順 9 に進みます。
- 8 [削除] を選択した場合は、IC カード情報を削除するユーザーを選択します。
- 9 [はい] を選択します。
[いいえ] を選択すると、削除をキャンセルします。

セキュリティプリントのオートリリース機能を設定する

この機能を有効にすると、ユーザーが IC カードを使ってログインしたときに、セキュリティプリント文書のデータが蓄積されていた場合、文書をプリントする画面が表示されます。

- 1 〈メニュー〉を押します。
- 2 [機器設定] タブ、[機器管理] の順に押します。
- 3 管理者パスワードを入力し、[確定] を押します。
- 4 [IC カード認証] を押します。
- 5 [セキュリティプリントオートリリース] を選択します。
- 6 [ON] を選択し、[確定] を押します。
[OFF] を選択すると、セキュリティプリントのオートリリース機能が無効になります。

第 3 章

主な仕様

主な仕様	3-2
主な仕様	3-2
外形寸法	3-10

主な仕様

本製品の仕様、外観は改良のため予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

主な仕様

□ 基本仕様／コピー仕様

項目		仕 様
名称		bizhub 2030 bizhub 2030f
形式		卓上型
メモリー容量		bizhub 2030 : コピー : 58MB bizhub 2030f: ファクス : 32MB、コピー : 58MB
読み取り解像度		600 dpi × 600 dpi
書き込み解像度		600 dpi × 600 dpi
階調		256 階調
感光体種類		OPC ドラム
複写方式		LED を露光光源とする乾式電子写真方式
現像方式		非磁性 1 成分接触現像
定着方式		ヒートローラーによる熱圧力定着方式
原稿サイズ		シート : 最大 297 mm × 420 mm ブック : 最大 297 mm × 420 mm
複写サイズ	用紙サイズ	用紙カセット (1 段目) A3、B4、A4、A4  、B5  、A5  、8K、16K、16K  、Letter、Letter  、Legal、Legal 13、F4
		用紙カセット (オプション) A3、B4、A4、A4  、A5  、B5  、8K、16K、16K  、Letter、Letter  、Legal、Legal 13、F4
		手差しトレイ A3、B4、A4、A4  、A5、A5  、B5、B5  、8K、16K、16K  、Letter、Letter  、Half Letter  、Legal、Legal 13、11×17、F4、はがき (幅 100 mm × 長さ 148 mm)、角形 2 号、長形 3 号、長形 4 号、洋形 4 号
		不定形 1、不定形 2、不定形 3、不定形 4、不定形 5 不定形サイズ設定可能範囲 (長さ : 140 ~ 432 mm 幅 : 90 ~ 297 mm) ^{*1}
	画像欠け幅	先端・後端 3 mm、左・右 3 mm
用紙種類	用紙カセット	普通紙、再生紙 60 ~ 90 g/m ² 、約 300 枚 (64 g/m ²)
	手差しトレイ	普通紙、再生紙 60 ~ 90 g/m ² 約 50 枚 (64 g/m ²) 厚紙 91 ~ 160 g/m ² 約 20 枚 (160 g/m ²) はがき 約 20 枚 封筒 5 枚
ウォームアップタイム		27.0 秒 (室温 23 °C) キー操作受付までの時間 : 約 13 秒
ファーストコピータイム		4.5 秒 (室温 23 °C、A4  、等倍、1 段目用紙カセット、原稿ガラス使用時)

項目		仕 様	
連続複写速度（最大） ^{*2}		A4 	20.2 枚/分
		A4	17.7 枚/分
		A3	15.9 枚/分
		B4	17.8 枚/分
		B5 	18.1 枚/分
		B5	19.1 枚/分
複写倍率	固定	等倍 100 % ± 1.5 % 以内 拡大 141 % / 122 % / 115 % 縮小 86 % / 81 % / 70 %	
	ズーム	25 ～ 400 % (1 % きざみ)	
給紙方式	標準	用紙カセット (300 枚) × 1 段 64 g/m ² + 手差しトレイ (50 枚) 64 g/m ²	
	オプション (最大)	用紙カセット (300 枚または 550 枚) × 3 段 64 g/m ²	
連続複写枚数		1 ～ 999 枚	
電源		AC 100 ± 10 V 50/60 Hz 共用	
待機電力	bizhub 2030	待機時	46 Wh
		節電モード (モード 1)	12W
		節電モード (モード 2)	0.5 W
		最小電力モード時 ^{*3}	0.23 W
	bizhub 2030f	待機時	53 Wh
		節電モード (モード 1)	14 W
		節電モード (モード 2)	0.5 W
		最小電力モード時 ^{*3}	0.23 W
最大消費電力 ^{*4}	bizhub 2030	870 W 以下 (フルオプション時)	
	bizhub 2030f	920 W 以下 (フルオプション時)	
エネルギー消費効率 ^{*5}	bizhub 2030	53 kWh/年 区分: 複合機 c	
	bizhub 2030f	56 kWh/年 区分: 複合機 c	
直流抵抗値 (bizhub 2030f のみ)		360.0 Ω (オプションのハンドセット装着時)	
大きさ (幅 × 奥 × 高)	bizhub 2030	幅 594 mm × 奥行き 585 mm (※) × 高さ 453 mm (※パネル角度 85° のとき)	
	bizhub 2030f	幅 594 mm × 奥行き 585 mm (※) × 高さ 491 mm (※パネル角度 85° のとき)	
機械占有寸法 (幅 × 奥)	bizhub 2030	幅 870 mm × 奥行き 630 mm (手差しトレイを開いた状態。突起部を除く)	
	bizhub 2030f	幅 870 mm × 奥行き 630 mm (手差しトレイを開いた状態。突起部を除く)	
質量 ^{*6}	bizhub 2030	32.0 kg	
	bizhub 2030f	36.1 kg	
環境条件		周囲温度が 10 °C 以上 30 °C 以下のとき 相対湿度: 20 ～ 80 % 周囲温度が 30 °C を超えて 32 °C 以下のとき 相対湿度: 20 ～ 68 %	

* 1 用紙サイズは、縦と横の比率が 2.5 倍以内に収まるように設定してください。

* 2 連続複写速度は、使用条件により低下する場合があります。

* 3 オプションの Information server、スキャナーヒーター、または IC カード認証装置装着時は、設定できません。

* 4 最大消費電力の数値は、起動時や定着ヒーター通電時の瞬間的ピークの消費電力ではありません。

* 5 省エネ法 (平成 25 年 3 月 1 日付) で定められた複合機の測定方法による数値です。

* 6 消耗品を除いた重さです。

□ 自動両面原稿送り装置仕様

項目	仕 様
原稿送り装置の種類	自動両面原稿送り装置
	1 枚だけ読み取る場合 ■最大 ・コピー時（片面 / 両面） 幅 297 mm × 長さ 432 mm ・ファクス送信 / スキャン時（片面） 幅 297 mm × 長さ 500 mm (600 dpi 読み込み時) 幅 297 mm × 長さ 1 000 mm (600 dpi 以外の読み込み時) ・ファクス送信 / スキャン時（両面） 幅 297 mm × 長さ 432 mm ■最小 幅 139.7 mm × 長さ 139.7 mm 自動連続読み取りの場合 ■最大 幅 297 mm × 長さ 420 mm ■最小 幅 148 mm × 長さ 210 mm
原稿の坪量	35 ~ 128 g/m²（片面） 50 ~ 128 g/m²（両面）
原稿積載枚数	70 枚（A5 ~ A3、80 g/m ² ）
原稿読み取り速度	25 枚 / 分（A4  、600 dpi）

□ プリンター部仕様

項目		仕 様
形式		内蔵型
メモリー容量		「基本仕様／コピー仕様」に準ずる
プリントサイズ		「基本仕様／コピー仕様」に準ずる
連続プリント速度		「基本仕様／コピー仕様」に準ずる
書き込み解像度		600 dpi × 600 dpi
ページ記述言語	標準	GDI
	オプション	PCL 5e ^{*2} 、PCL XL ^{*2}
対応プロトコル		TCP/IP (LPR (IPv4)、Port9100)、IPP ^{*3} 、SNMP
インターフェイス		Ethernet 10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-T、USB2.0
エミュレーション		HP LaserJet 4250n ^{*2}
対応 OS ^{*1}		Windows® 10 Enterprise (x86/x64) Windows® 10 Education (x86/x64) Windows® 10 Pro (x86/x64) Windows® 10 Home (x86/x64) Windows® 8.1 (x86/x64) Windows® 8.1 Pro (x86/x64) Windows® 8.1 Enterprise (x86/x64) Windows® 7 Enterprise (x86/x64) Windows® 7 Professional (x86/x64) Windows® 7 Ultimate (x86/x64) Windows® 7 Home Premium (x86/x64) Windows Server® 2016 Datacenter Windows Server® 2016 Standard Windows Server® 2016 Essentials Windows Server® 2012 R2 Datacenter Windows Server® 2012 R2 Standard Windows Server® 2012 R2 Essentials Windows Server® 2012 R2 Foundation Windows Server® 2012 Datacenter Windows Server® 2012 Standard Windows Server® 2012 Essentials Windows Server® 2012 Foundation Windows Server® 2008 R2 Datacenter (x64) Windows Server® 2008 R2 Enterprise (x64) Windows Server® 2008 R2 Standard (x64) Windows Server® 2008 Datacenter (x86/x64) Windows Server® 2008 Enterprise (x86/x64) Windows Server® 2008 Standard (x86/x64) Windows Vista® Enterprise (x86/x64) Windows Vista® Business (x86/x64) Windows Vista® Ultimate (x86/x64) Windows Vista® Home Premium (x86/x64) Windows Vista® Home Basic (x86/x64)
内蔵フォント	PCL5e ^{*2}	和文 2 フォント (MS 明朝、MS ゴシック) 欧文 80 フォント
	PCLXL ^{*2}	欧文 80 フォント

* 1 2016 年 10 月現在。最新の対応 OS については、弊社ホームページでご確認ください。

* 2 オプションの PCL 拡張キットが必要です。

* 3 オプションの Information server が必要です。

□ スキャナー部仕様

項 目	仕 様
形式	カラーレスキャナー
原稿サイズ	「自動両面原稿送り装置仕様」に準ずる
読み取り解像度	600 dpi × 600 dpi、300 dpi × 300 dpi、200 dpi × 200 dpi
原稿読み取り速度	32 枚/分 (A4  , 300 dpi、片面原稿、モノクロ)
対応プロトコル	TWAIN、HTTP、SMTP、SMTPS、CIFS (SMB)、FTP
インターフェイス	Ethernet 10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-T、USB2.0
対応 OS (TWAIN) ^{*1}	Windows® 10 Enterprise (x86/x64) Windows® 10 Education (x86/x64) Windows® 10 Pro (x86/x64) Windows® 10 Home (x86/x64) Windows® 8.1 (x86/x64) Windows® 8.1 Pro (x86/x64) Windows® 8.1 Enterprise (x86/x64) Windows® 7 Enterprise (x86/x64) Windows® 7 Professional (x86/x64) Windows® 7 Ultimate (x86/x64) Windows® 7 Home Premium (x86/x64) Windows Server® 2016 Datacenter ^{*2} Windows Server® 2016 Standard ^{*2} Windows Server® 2016 Essentials ^{*2} Windows Server® 2012 R2 Datacenter ^{*2} Windows Server® 2012 R2 Standard ^{*2} Windows Server® 2012 R2 Essentials ^{*2} Windows Server® 2012 R2 Foundation ^{*2} Windows Server® 2012 Datacenter ^{*2} Windows Server® 2012 Standard ^{*2} Windows Server® 2012 Essentials ^{*2} Windows Server® 2012 Foundation ^{*2} Windows Server® 2008 R2 Datacenter (x64) ^{*2} Windows Server® 2008 R2 Enterprise (x64) ^{*2} Windows Server® 2008 R2 Standard (x64) ^{*2} Windows Server® 2008 Datacenter (x86/x64) ^{*2} Windows Server® 2008 Enterprise (x86/x64) ^{*2} Windows Server® 2008 Standard (x86/x64) ^{*2} Windows Vista® Enterprise (x86/x64) Windows Vista® Business (x86/x64) Windows Vista® Ultimate (x86/x64) Windows Vista® Home Premium (x86/x64) Windows Vista® Home Basic (x86/x64)
出力フォーマット	TIFF、JPEG、PDF
ドライバー	TWAIN ドライバー

* 1 2016 年 10 月現在。最新の対応 OS については、弊社ホームページでご確認ください。

* 2 ネットワークのみ使用できます。

□ ファクス部仕様 (bizhub 2030f のみ)

項 目	仕 様
適用回線	加入電話回線
走査線密度	超高画質 主走査 600 dpi× 副走査 600 dpi または 主走査 16 画素 /mm × 副走査 15.4 本 /mm ^{*1} 高画質 主走査 8 画素 /mm× 副走査 7.7 本 /mm 標準 主走査 8 画素 /mm× 副走査 3.85 本 /mm 写真 主走査 8 画素 /mm× 副走査 7.7 本 /mm
通信速度	33 600、31 200、28 800、26 400、24 000、21 600、 19 200、16 800、14 400、12 000、9 600、7 200、4 800、 2 400 bit/s (自動切替)
符号化方式	MH、MR、MMR、JBIG
通信モード	スーパー G3、G3
送信原稿サイズ	A3、B4、A4
記録紙サイズ	A3、B4、A4、B5、A5
電送時間	2 秒台 ^{*2}

* 1 該当モードを持たない装置とは交信できません。

* 2 A4 版 700 字程度の当社標準原稿を、標準画質 (8 画素 × 3.85 本 /mm)、スーパー G3 モード (ITU-TV.34 準拠 33 600 bit/s) で送信した場合の時間です。これは画像情報のみの電送速度で通信の制御時間は含まれていません。なお、実際の通信時間は原稿の内容、相手機種、回線の状態により異なります。G3 機との通信 (同じ原稿を 14 400 bit/s で送ったとき) では 6 秒台になります。一般の電話回線での通信速度は、回線の条件、状況によって 33 600 bit/s の速度以下になる場合もあります。

□ PC-FAX 仕様 (Information server 装着時)

項 目	仕 様
原稿サイズ	A3、B4、A4
符号化方式	MH、MR、MMR、JBIG
通信規格	T.30 (FAX)、T.37 (I-FAX)
通信速度	最大 33 600 bit/s (FAX)、最大 100 Mbit/s (I-FAX)
最大解像度	600 dpi × 600 dpi
宛先表	2 000 件
同報最大件数	4 060 件
対応 OS * 1 ファクスドライバー	Windows® 10 Enterprise (x86/x64) Windows® 10 Education (x86/x64) Windows® 10 Pro (x86/x64) Windows® 10 Home (x86/x64) Windows® 8.1 (x86/x64) Windows® 8.1 Pro (x86/x64) Windows® 8.1 Enterprise (x86/x64) Windows® 7 Enterprise (x86/x64) Windows® 7 Professional (x86/x64) Windows® 7 Ultimate (x86/x64) Windows® 7 Home Premium (x86/x64) Windows Server® 2016 Datacenter Windows Server® 2016 Standard Windows Server® 2016 Essentials Windows Server® 2012 R2 Datacenter Windows Server® 2012 R2 Standard Windows Server® 2012 R2 Essentials Windows Server® 2012 R2 Foundation Windows Server® 2012 Datacenter Windows Server® 2012 Standard Windows Server® 2012 Essentials Windows Server® 2012 Foundation Windows Server® 2008 R2 Datacenter (x64) Windows Server® 2008 R2 Enterprise (x64) Windows Server® 2008 R2 Standard (x64) Windows Server® 2008 Datacenter (x86/x64) Windows Server® 2008 Enterprise (x86/x64) Windows Server® 2008 Standard (x86/x64) Windows Vista® Enterprise (x86/x64) Windows Vista® Business (x86/x64) Windows Vista® Ultimate (x86/x64) Windows Vista® Home Premium (x86/x64) Windows Vista® Home Basic (x86/x64)

* 1 2016 年 10 月現在。最新の対応 OS については、弊社ホームページでご確認ください。

□ インターネット FAX 仕様 (Information server 装着時)

項 目	仕 様
通信プロトコル	送信：SMTP/ESMTP 受信：SMTP/POP3
通信規格	ITU-T T.37 (Simple Mode、Full Mode)
符号化方式	MH、MR、MMR、JBIG
送信原稿サイズ	A3、B4、A4
走査線密度	超高画質 主走査 600 dpi× 副走査 600 dpi または 主走査 16 画素 /mm × 副走査 15.4 本 /mm ^{*1} 高画質 主走査 8 画素 /mm× 副走査 7.7 本 /mm 標準 主走査 8 画素 /mm× 副走査 3.85 本 /mm
データフォーマット	TIFF-S、TIFF-F、PDF

* 1 該当モードを持たない装置とは交信できません。

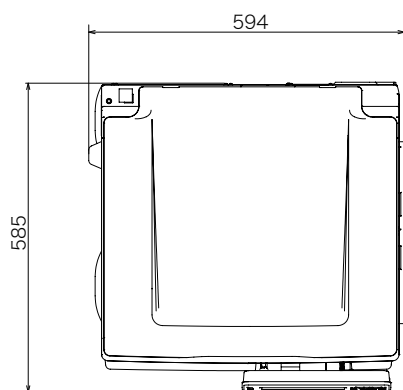
□ Information server 仕様

項 目	仕 様
対応ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 8 Microsoft Internet Explorer 9 Microsoft Internet Explorer 10 Microsoft Internet Explorer 11 Microsoft Edge Firefox 36 Safari 7.0
動作環境	対応ブラウザおよび各ドライバー・ユーティリティが動作する Windows 環境
メモリー ^{*1}	4 GB
蓄積枚数	約 10 000 枚 A4 標準原稿の場合
宛先表登録件数	2 000 件 グループ :200 件
登録可能ユーザー数	200 ユーザー
LDAP 対応サーバー	Active Directory : Windows Server 2016, Windows Server 2012, Windows Server 2008 R2, Windows Server 2008 OpenLDAP on Linux
対応認証サーバー・プロトコル	Windows Server 2016 (Active Directory) Windows Server 2012 (Active Directory) Windows Server 2008 R2 (Active Directory) Windows Server 2008 (Active Directory) Kerberos v5

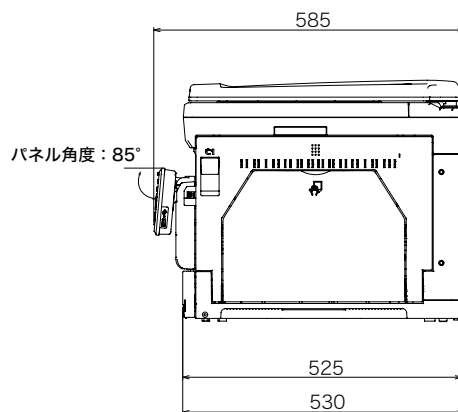
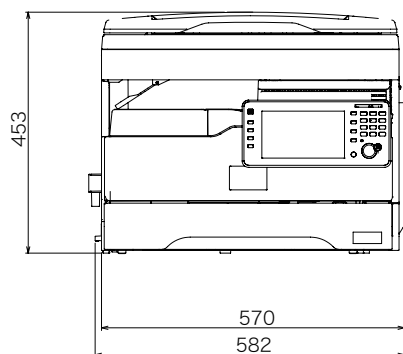
* 1 画像メモリー領域は約 1GB です。

外形寸法

bizhub 2030 (標準)

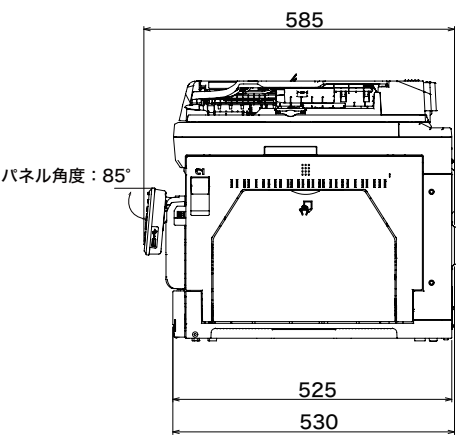
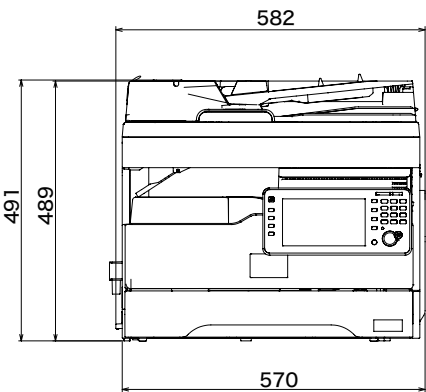
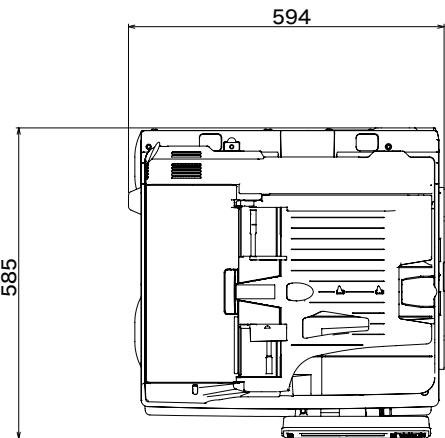


(単位:mm)



bizhub 2030f (標準)

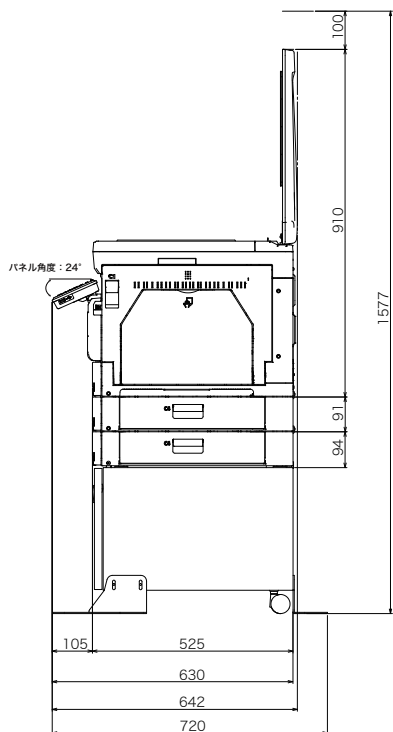
(単位:mm)



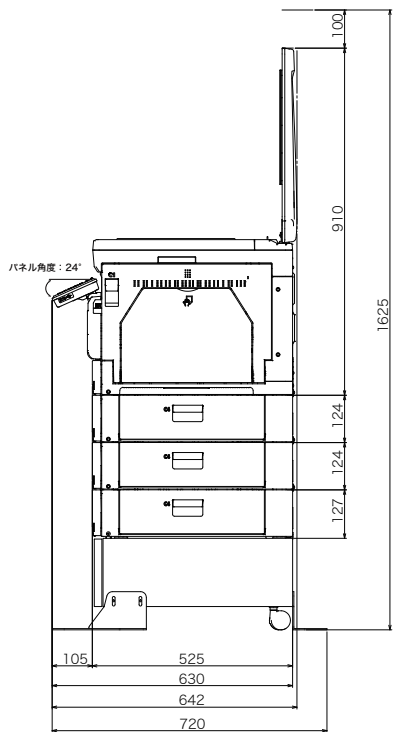
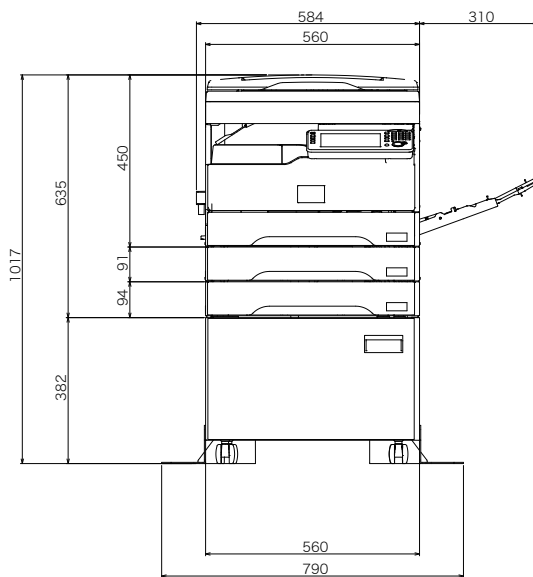
3

主な仕様

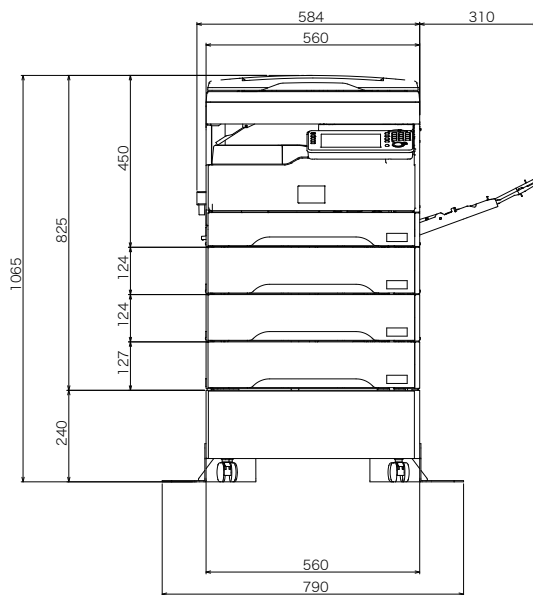
bizhub 2030 最大



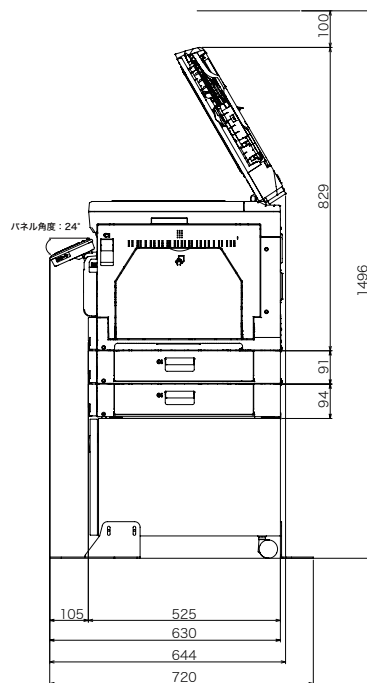
標準 + 給紙ユニット(300枚)×2段 + 専用台(Highタイプ)



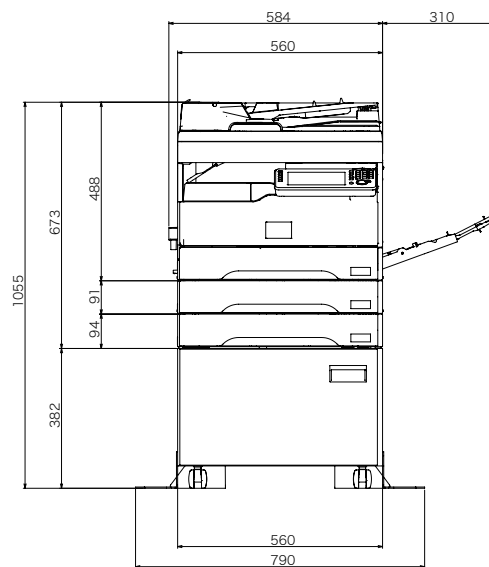
標準 + 給紙ユニット(550枚)×3段 + 専用台(Lowタイプ)



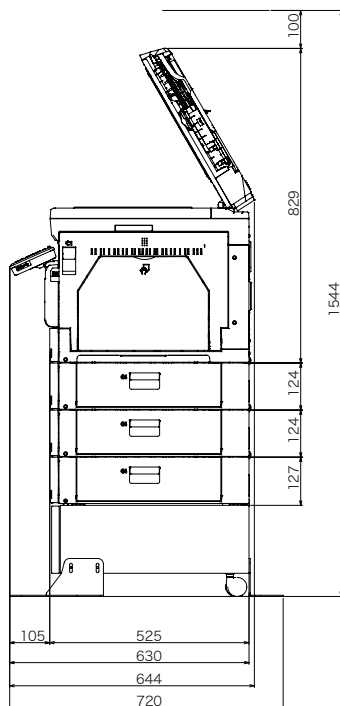
bizhub 2030f 最大



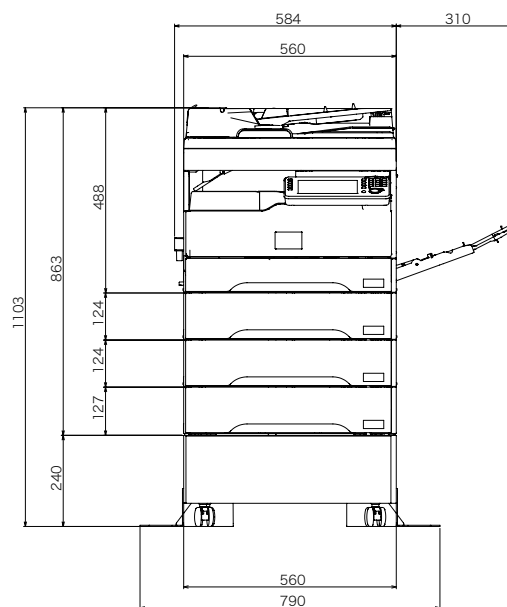
(単位:mm)



標準 + 給紙ユニット(300枚)×2段 + 専用台Highタイプ



(単位:mm)



標準 + 給紙ユニット(550枚)×3段 + 専用台Lowタイプ

(空白ページ)

第 4 章

商標および著作権について

商標および著作権などについて	4-2
登録商標および商標について	4-2
オープンソースライセンスについて	4-2

商標および著作権などについて

登録商標および商標について

- Microsoft®、Windows ロゴ、Windows®、Windows Server®、Windows Vista®、Internet Explorer® は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Intel は、米国 Intel Corporation の登録商標です。
- RSA® は RSA Security Inc. の登録商標です。BSAFE® は RSA Security Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。本製品は、RSA Security Inc. の RSA® BSAFE™ ソフトウェアを搭載しています。
-  Monotype Imaging
 - ♦ Monotype is a trademark of Monotype Imaging, Inc. registered in the United States Patent and Trademark Office and may be registered in certain jurisdictions. The Monotype Imaging logo is a trademark of Monotype Imaging, Inc. and may be registered in certain jurisdictions.
 - ♦ UFST is a trademark of Monotype Imaging, Inc. and may be registered in certain jurisdictions.
- Mozilla および Firefox は Mozilla Foundation の商標です。
- Adobe、Adobe ロゴ、Acrobat、Adobe® Flash® および PostScript は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- 日本語変換はオムロンソフトウェア（株）のモバイル Wnn を使用しています。“Mobile Wnn” OMRON SOFTWARE Co.,Ltd. 1999-2002 All Rights Reserved.
- PCL は、米国 Hewlett-Packard Company Limited の登録商標です。
- Ethernet は、Xerox Corporation の登録商標です。
- 「FeliCa」は、ソニー株式会社の登録商標です。「FeliCa」は、ソニー株式会社が開発した非接触 IC カードの技術方式です。
- 「MIFARE」は NXP セミコンダクターズ社の登録商標です。
- その他の社名および製品名は各社の商標または登録商標です。

オープンソースライセンスについて

□ BSD License

Copyright © 1994–2007 The NetBSD Foundation, Inc. All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
This product includes software developed by the NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.
4. Neither the name of The NetBSD Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE NETBSD FOUNDATION, INC. AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES,

INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE FOUNDATION OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Copyright 1979, 1980, 1983, 1986, 1988, 1989, 1991, 1992, 1993, 1994

The Regents of the University of California. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

4. Neither the name of the University nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

Acknowledgement

This product includes software developed by the NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.

This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.

This product includes software developed by WIDE Project and its contributors.

This product includes software developed by Charles D. Cranor and Washington University.

This product includes software developed by Adam Glass.

This product includes software developed by Jonathan Stone for the NetBSD Project.

This product includes software developed by Michael Graff.

This product includes software developed by Niels Provos.

This product includes software developed by Christos Zoulas.

This product includes software developed by Winning Strategies, Inc.

This product includes software developed for the NetBSD Project. See <http://www.NetBSD.org/> for information about NetBSD.

This product includes software developed by Eduardo Horvath.

This product includes software developed by the Alice Group.
This product includes software developed by Christopher G. Demetriou for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Rolf Grossmann.
This product includes software developed by John Polstra.
This product includes software developed by Frank van der Linden for the NetBSD Project.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Wasabi Systems, Inc.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Frank van der Linden.
This product includes software developed by Softweyr LLC, the University of California, Berkeley, and its contributors.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Jason R. Thorpe.
This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).
This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).
This product includes software developed by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
This product includes software developed by Leo Weppelman.
This product includes software developed by Jonathan Stone and Jason R. Thorpe for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Berkeley Software Design, Inc.
This product includes software developed by Darrin B. Jewell.
This product includes software developed by Manuel Bouyer.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Perry E. Metzger.
This product includes software developed at the Information Technology Division, US Naval Research Laboratory.
This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory and its contributors.
This product includes software developed by the Computer Systems Engineering Group at Lawrence Berkeley Laboratory.
This product includes software developed by Yen Yen Lim and North Dakota State University.
This product includes software developed by Bruce M. Simpson.
This product includes software developed by Michael Shalayeff.
This product includes software developed by Jason L. Wright.
This product includes software developed by Jonathan R. Stone for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Chuck Silvers.
This product includes software developed by Gordon W. Ross and Leo Weppelman.
This product includes software developed by Gordon W. Ross.
This product includes software developed by Tools GmbH.
This product includes software developed by Mats O Jansson.
This product includes software developed by Adam Glass and Charles M. Hannum.
This product includes software developed by Charles D. Cranor, Washington University, and the University of California, Berkeley and its contributors.
This product includes software developed by Charles M. Hannum.
This product includes software developed by HAYAKAWA Koichi.
This product includes software developed by Charles Hannum.

❑ ACME Labs Freeware License

Copyright © 2000 by Jef Poskanzer <jef@mail.acme.com>. All rights reserved.
Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

❑ Cyrus SASL License

This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (<http://www.cmu.edu/computing/>).

❑ The Independent JPEG Group's JPEG software

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

❑ Info-ZIP License

This is version 1999-Oct-05 of the Info-ZIP copyright and license.

The definitive version of this document should be available at <ftp://ftp.cdrom.com/pub/infzip/license.html> indefinitely.

Copyright (C) 1990-1999 Info-ZIP. All rights reserved.

For the purposes of this copyright and license, "Info-ZIP" is defined as the following set of individuals:

Mark Adler, John Bush, Karl Davis, Harald Denker, Jean-Michel Dubois, Jean-loup Gailly, Hunter Goatley, Ian Gorman, Chris Herborth, Dirk Haase, Greg Hartwig, Robert Heath, Jonathan Hudson, Paul Kienitz, David Kirschbaum, Johnny Lee, Onno van der Linden, Igor Mandrichenko, Steve P. Miller, Sergio Monesi, Keith Owens, George Petrov, Greg Roelofs, Kai Uwe Rommel, Steve Salisbury, Dave Smith, Christian Spieler, Antoine Verheijen, Paul von Behren, Rich Wales, Mike White This software is provided "as is," without warranty of any kind, express or implied.

In no event shall Info-ZIP or its contributors be held liable for any direct, indirect, incidental, special or consequential damages arising out of the use of or inability to use this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, definition, disclaimer, and this list of conditions.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, definition, disclaimer, and this list of conditions in documentation and/or

- other materials provided with the distribution.
3. Altered versions—including, but not limited to, ports to new operating systems, existing ports with new graphical interfaces, and dynamic, shared, or static library versions—must be plainly marked as such and must not be misrepresented as being the original source. Such altered versions also must not be misrepresented as being Info-ZIP releases—including, but not limited to, labeling of the altered versions with the names “Info-ZIP” (or any variation thereof, including, but not limited to, different capitalizations), “Pocket UnZip,” “WiZ” or “MacZip” without the explicit permission of Info-ZIP. Such altered versions are further prohibited from misrepresentative use of the Zip-Bugs or Info-ZIP e-mail addresses or of the Info-ZIP URL(s).
 4. Info-ZIP retains the right to use the names “Info-ZIP,” “Zip,” “UnZip,” “WiZ,” “Pocket UnZip,” “Pocket Zip,” and “MacZip” for its own source and binary releases.

❑ Net-SNMP License

Various copyrights apply to this package, listed in various separate parts below. Please make sure that you read all the parts.

---- Part 1: CMU/UCD copyright notice: (BSD like) ----

Copyright 1989, 1991, 1992 by Carnegie Mellon University Derivative Work - 1996, 1998-2000

Copyright 1996, 1998-2000 The Regents of the University of California All Rights Reserved

Permission to use, copy, modify and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appears in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of CMU and The Regents of the University of California not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific written permission.

CMU AND THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA DISCLAIM ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL CMU OR THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM THE LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

---- Part 2: Networks Associates Technology, Inc copyright notice (BSD) ----

Copyright © 2001-2003, Networks Associates Technology, Inc. All rights reserved. Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * Neither the name of the Networks Associates Technology, Inc nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS “AS IS” AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR

CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 3: Cambridge Broadband Ltd. copyright notice (BSD) ----

Portions of this code are copyright (c) 2001-2003, Cambridge Broadband Ltd. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * The name of Cambridge Broadband Ltd. may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDER "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 4: Sun Microsystems, Inc. copyright notice (BSD) ----

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Use is subject to license terms below.

This distribution may include materials developed by third parties.

Sun, Sun Microsystems, the Sun logo and Solaris are trademarks or registered trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the U.S. and other countries.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * Neither the name of the Sun Microsystems, Inc. nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND

ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 5: Sparta, Inc copyright notice (BSD) ----

Copyright © 2003-2008, Sparta, Inc. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * Neither the name of Sparta, Inc nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 6: Cisco/BUPTNIC copyright notice (BSD) ----

Copyright (c) 2004, Cisco, Inc and Information Network Center of Beijing University of Posts and Telecommunications. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * Neither the name of Cisco, Inc, Beijing University of Posts and Telecommunications, nor the names of their contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 7: Fabasoft R&D Software GmbH & Co KG copyright notice (BSD) ----

Copyright © Fabasoft R&D Software GmbH & Co KG, 2003oss@fabasoft.com

Author: Bernhard Penz

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- * Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- * Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- * The name of Fabasoft R&D Software GmbH & Co KG or any of its subsidiaries, brand or product names may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDER "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

□ The zlib/libpng License

TinyXML is released under the zlib license:

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Copyright (C) 1995-1998 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly Mark Adler jlg@zip.org madler@alumni.caltech.edu

❑ FreedImage Public License - Version 1.0

1. Definitions.

1.1. "Contributor" means each entity that creates or contributes to the creation of Modifications.

1.2. "Contributor Version" means the combination of the Original Code, prior Modifications used by a Contributor, and the Modifications made by that particular Contributor.

1.3. "Covered Code" means the Original Code or Modifications or the combination of the Original Code and Modifications, in each case including portions thereof.

1.4. "Electronic Distribution Mechanism" means a mechanism generally accepted in the software development community for the electronic transfer of data.

1.5. "Executable" means Covered Code in any form other than Source Code.

1.6. "Initial Developer" means the individual or entity identified as the Initial Developer in the Source Code notice required by Exhibit A.

1.7. "Larger Work" means a work which combines Covered Code or portions thereof with code not governed by the terms of this License.

1.8. "License" means this document.BSD license

Copyright © 1995 - 2001 Kungliga Tekniska Högskolan

(Royal Institute of Technology, Stockholm, Sweden).

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- 1.Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- 2.Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- 3.Neither the name of the Institute nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE INSTITUTE AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE INSTITUTE OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

■ The zlib/libpng license

TinyXML is released under the zlib license:

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

- 1.The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment

- in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
 3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Copyright © 1995-1998 Jean-loup Gailly and Mark Adler

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software. Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

Jean-loup Gailly Mark Adlerjloup@gzip.org madler@alumni.caltech.edu

■ Boost software license

Boost Software License - Version 1.0 - August 17th, 2003

Permission is hereby granted, free of charge, to any person or organization obtaining a copy of the software and accompanying documentation covered by this license (the "Software") to use, reproduce, display, distribute, execute, and transmit the Software, and to prepare derivative works of the Software, and to permit third-parties to whom the Software is furnished to do so, all subject to the following:

The copyright notices in the Software and this entire statement, including the above license grant, this restriction and the following disclaimer, must be included in all copies of the Software, in whole or in part, and all derivative works of the Software, unless such copies or derivative works are solely in the form of machine-executable object code generated by a source language processor.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, TITLE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR ANYONE DISTRIBUTING THE SOFTWARE BE LIABLE FOR ANY DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

■ The independent JPEG group's JPEG software

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

■ SSLeay License

Copyright © 1995-1997 Eric Young (eay@mincom.oz.au)
All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@mincom.oz.au). The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@mincom.oz.au).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.

If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used.

This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@mincom.oz.au)"
The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).
4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
"This product includes software written by Tim Hudson (tjh@mincom.oz.au)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence
including the GNU Public Licence.



KONICA MINOLTA

コニカミノルタ ジャパン株式会社

〒105-0023 東京都港区芝浦 1-1-1